

三 公權剝奪若クハ停止中ノ者

第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初回ノ解任者ハ抽籤ヲ以テ定ムヘシ

第十一條 會員當選者ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經ヌシテ其就職ヲ辭シ又ハ任期中辭職スルコトヲ得ス
一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者

二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條 會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス

前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多ラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 會員選舉規則
- 二 議事規則
- 三 庶務規程

四 役員職務權限

五 仲裁規則

六 會計規則

七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則

第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ

第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

○商業會議所條例施行規則 農商務省令第十二號

商業會議所條例施行規則 農商務省令第十二號

商業會議所條例

第一條 商業會議所設立ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會員選舉規則及

ヒ設立費用ノ豫算ヲ添ヘ認可ヲ受クヘシ

一 會議所ノ名稱

二 設立地ノ區域

三 設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者及被選舉權ヲ有スル者ノ概數

四 會員ノ定數

第二條 設立認可ヲ得タルトキハ發起人ニ於テ其旨公告シ商業會議所條

例第五條及ヒ第六條ニ依リ會員選舉人及被選舉人ノ名稱ヲ六十日以内

ニ調製シ認可ニ係ル書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ會員選舉ノ施行ヲ求ムヘシ

但設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ建設スヘキ地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第三條 會議所設立發起人又ハ會議所ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲナシタルトキハ郡長若クハ市長ハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ

十五日以上ノ豫告ヲナシ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第四條 第一條ノ申請書ニ依リ認可ヲ得タル會員ノ定數會員選舉規則及第二條ニ依リ調製シタル會員選舉人及被選舉人名簿ハ會議所定款認可ノ日マテ効力ヲ有スルモノトス

第五條 會議所又ハ其ノ設立發起人ニ於テ會員選舉人及被選舉人名簿ヲ調製スルトキ其ノ納稅額並年齡ノ調査ニ付テハ地方長官ノ證明ヲ受クヘシ

第六條 會議所ノ定款ハ會員選舉ノ後六十日以内ニ議定シテ認可ヲ受クヘシ

第七條 第二條及第六條規定ノ期限内ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ詳記シ其期限内ニ延期ヲ請フコトヲ得(第二十四年農商務省令)

○商業會議所條例中東京市ニ於ケル所得稅ノ等級ヲ定ム(農商務省令第十號)

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ明治二十年三月勅令第五號所得稅法第四條ノ第四等以上トス

○商業會議所會員ノ選舉ヲ終リタルトキ郡長市長ノ執行手續(二十三年十二月農商務省訓令第六十八號)

明治二十三年農商務省令第十二號商業會議所條例施行規則第三條ニ依リ會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ選舉ヲ施行シタル郡長若クハ市長ヲシテ左ノ手續ヲ執行セシムヘシ

一 會員當選者ニ當選ノ通知書ヲ交付スヘシ但商事會社ニハ通知書ヲ交付スルト同時ニ其代表人ノ氏名ノ届出ヲ命スヘシ

二 選舉ニ關スル書類物件ハ會議所ニ引繼クヘシ

三 最初ノ選舉ヲ施行シタルトキハ其選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以

三百七十四
内ニ時日場所ヲ指定シ會員當選者ヲ召集シ初回ノ會議ヲ開カシム
ヘシ

○日本銀行條例 明治十五年六月
第三十二號布告
日本銀行條例左ノ通制定ス

日本銀行條例

- 第一條 日本銀行ハ有限責任トシ本行ノ負債辨償ノ爲メ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス
- 第二條 日本銀行ハ本店ヲ東京ニ置クヘシ各府縣ノ首邑其他要用ナル地方ニ支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置シ又ハ他ノ銀行ト「コレレスボンデンス」ヲ締約スルトキハ其事由ヲ「大藏卿」ニ具狀シテ其許可ヲ受クヘシ又「大藏卿」

ニ於テ支店出張所ヲ要用ナリトスル時ハ銀行ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトアルヘシ

第三條 日本銀行ノ營業年限ハ開業ノ日ヨリ滿三十年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 日本銀行ノ資本金ハ壹千萬圓ト定メ之ヲ五萬株ニ分チ一株貳百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増加ヲ請願スルコトヲ得

第五條 日本銀行ノ株券ハ總テ記名券トナシ日本人ノ外賣買讓與スルヲ許サス

第六條 日本銀行ノ株主トナラントスルモノハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 資本金總額五分ノ一即チ貳百萬圓ノ入金アルトキハ營業ヲ開始スルヲ得ヘシ但資本金募集ノ手續ハ定款ヲ以テ定ムル者トス

第八條 營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本現入金額ノ内幾分ヲ減少シタル時ハ其事由ヲ審明シ資本入金殘額ヨリ其欠額ニ充ル迄ノ金額ヲ追募スヘシ

第九條 事業ノ伸張ニ由リ資本入金ノ増加ヲ要スル時ハ之ヲ資本入金殘額ヨリ追募スヘシ

第十條 純益金總額ヨリ株主割賦金ヲ引去リ其殘額ヨリ少クトモ十分ノ一ヲ左ノ目的ヲ以テ積立金ト爲ス可シ

第一 資本金ノ損失ヲ補フ

第二 割賦金ノ不足ヲ補フ

第十一條 日本銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 政府發行ノ手形爲換手形其他商業手形等ノ割引ヲ爲シ又ハ買入ヲ爲ス事

第二 地金銀ノ賣買ヲ爲ス事

第三 金銀貨或ハ地金銀ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第四 豫テ取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲メニ手形金ノ取立ヲ爲ス事

第五 諸預リ勘定ヲ爲シ又ハ金銀貨貴金屬並諸證券類ノ保護預リヲ爲ス事

第六 公債證書政府發行ノ手形其他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ抵當トシテ當座勘定貸又ハ定期貸ヲ爲ス事但其金額及利息ノ割合ハ總裁副總裁理事監事ニ於テ時々決議シ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘシ

第十二條 日本銀行ハ第十一條ニ記載スル事業ノ外左ニ掲クル件々ハ勿論其他諸般ノ營業ニ關涉スルコトヲ得ス

第一 不動産及ヒ銀行又ハ諸會社ノ株券ヲ抵當トシテ貸金ヲ爲ス事

第二 本銀行ノ株券ニ對シテ貸金ヲ爲シ又ハ此株券ノ買戻ヲ爲ス事

第三 諸工業會社ノ株主タルハ勿論直接間接ヲ問ハス工業ニ關係スル事

第四 本支店出張所ヲ開設スル爲メ必要ナル者ノ外一切他ノ不動産ノ所有主タル事

第十三條 政府ノ都合ニ由リ日本銀行ヲシテ國庫金ノ取扱ヒニ從事セシムヘシ

第十四條 日本銀行ハ兌換銀行券ヲ發行スルノ權ヲ有ス但此銀行券ヲ發行セシムル時ハ別段ノ規則ヲ制定シ更ニ頒布スル者トス

第十五條 日本銀行ハ諸手形及切手ヲ發行スルヲ得ヘシ

第十六條 日本銀行ハ公債證書買入又ハ之ヲ賣拂フコトヲ得ヘシ但此場合

ニ於テハ「大藏卿」ノ許可ヲ受クヘキモノトス

第十七條 日本銀行ハ總裁一人副總裁一人理事四人ヲ以テ綜理スル者トス
此外ニ監事三人乃至五人ヲ置クヘシ

第十八條 總裁副總裁ハ任期五ケ年トシ總裁ハ勅任副總裁ハ奏任トス但任期中ハ他ノ官職ヲ兼任スルヲ得ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス(二十三年法律第六十一號ヲ以テ本項改正次項以下各項ニ於テ之ヲ選舉ス(追加此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトトス)

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ召集ス(二十三年法律第六十一號各項追加此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトトス)

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ召集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ召集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委托スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十

株毎二一箇ノ投票權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十一條 「大藏卿」ハ特ニ監理官ヲ日本銀行ニ派出シテ諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ

第二十二條 日本銀行ハ本支店出張所及約定店等ノ營業上百般ノ景況ヲ調査シ少クモ毎月一回之ヲ「大藏卿」ヘ報告ス可シ

第二十三條 日本銀行ハ本條例ノ旨趣ニ基キ銀行定款ヲ作り政府ノ許可ヲ受クヘシ但定款ヲ改正シ又ハ定款外ノ事件ヲ處スル時ハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ許可ヲ受ク可シ

第二十四條 政府ハ日本銀行諸般ノ業務ヲ監督シ其營業上條例定款ニ背戻スル事ハ勿論政府ニ於テ不利ト認ル事件ハ之ヲ制止スヘシ

第二十五條 此條例ヲ改正増削スル時ハ其施行ノ日ヨリ三箇月以前ニ之ヲ布告スヘシ

○兌換銀行券條例明治十七年五月
第拾八號布告

兌換銀行券條例別紙ノ通制定シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス

但明治七年九第百號布告ハ此條例布告ノ日ヨリ滿一個年ノ後廢止ス
(別紙)

兌換銀行券條例

第一條 兌換銀行券ハ日本銀行條例第十四條ニ據リ同銀行ニ於テ發行シ銀貨ヲ以テ兌換スルモノトス

第二條 日本銀行ハ券換銀行券發行高ニ對シ同額ノ金銀貨及地金銀ヲ置キ其引換準備ニ充ツヘシ(二十一年勅令第五十
九號ヲ以テ本項改正)

日本銀行ハ前項ノ外特ニ八千五百萬圓ヲ限リ政府發行ノ公債證書大藏省證券其他確實ナル證券又ハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發行スルコトヲ得但本項八千五百萬圓ノ内二千七百萬圓ハ明治二十二

年一月一日以降ニ係ル國立銀行紙幣ノ消却高ヲ限トシ漸次發行スル
 モノトス(二十一年勅令第五十九號ヲ以テ本項追加二十三年法
 律第三十四號ヲ以テ七千萬圓ヲ八千五百萬圓ニ改ム)
 日本銀行ハ市場ノ景況ニ由リ流通貨幣ノ増加ヲ必要ト認ムルトキハ
 大藏大臣ノ許可ヲ得テ前二項發行高ノ外更ニ政府發行公債證書大藏
 省證券其他確實ナル證券若クハ商業手形ヲ保證トシ兌換銀行券ヲ發
 行スルコトヲ得此場合ニ於テハ其發行額ニ對シ一箇年百分ノ五ヲ下
 ヲサル割合ヲ以テ發行稅ヲ納ムヘシ但其割合ハ其時々大藏大臣之ヲ
 定ム(二十一年勅令第五十
 九號ヲ以テ本項追加)
 日本銀行ハ政府發行紙幣消却ノ爲メ貳千貳百萬圓ヲ限り無利子ヲ以
 テ政府ニ貸付スヘシ(二十一年勅令第五十九號ヲ以テ本項追
 加二十三年法律第五十四號ヲ以テ改正)
 前項貸付金ノ償還年限及毎年償還金額ハ大藏大臣之ヲ定ム(二十一年
 十九號ヲ以
 テ本項追加)
 第三條 兌換銀行券ノ種類ハ壹圓五圓拾圓貳拾圓五拾圓百圓貳百圓ノ

七種トス但「大藏卿」ハ各種ニ就テ其發行高ヲ定ムヘシ

第四條 兌換銀行券ハ租稅海關稅其他一切ノ取引ニ差支ナク通用スル
 モノトス

第五條 兌換銀行券ハ「大藏卿」ノ指定スル書式圖形ニヨリ日本銀行ニ
 於テ之ヲ製造シ時々其製造高ヲ「大藏卿」ニ上申スヘシ但其見本ハ發
 行期日前「大藏卿」ヨリ告示スヘシ

第六條 兌換銀行券ノ引換ヲ請フ者アルトキハ日本銀行本店及ヒ支店
 ニ於テ營業時間中何時ニテモ兌換スヘシ

但支店ニ於テハ本店ヨリ準備金ノ到達スヘキ時間其兌換ヲ延期ス
 ルコトヲ得(十八年第九號布告
 ヲ以テ但舊追加)

第七條 金銀貨ヲ持參シテ兌換銀行券ニ引換ンコトヲ請フモノアルト
 キハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ交換スルモノト
 ス

第八條 日本銀行ハ兌換銀行券發行額及交換準備ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ製シ之ヲ大藏大臣ヘ進達シ且每週平均高表ハ官報ニ廣告スヘシ(二十一年勅令第五十九號ヲ以テ改正)

第九條 「大藏卿」ハ日本銀行監理官ヲシテ特ニ兌換銀行券發行ノ件ヲ監督セシムヘシ但監理官ニ於テ必要ナリトスルトキハ何時ニテモ其手許有高及ヒ帳簿ヲ検査スルコトヲ得

第十條 兌換銀行券ノ染汚毀損等ニヨリ通用シ難キモノハ日本銀行本店及ヒ支店ニ於テ無手数料ニテ之ヲ引換フヘシ

第十一條 兌換銀行券ノ製造、損券引換及ヒ消却等ノ手續ハ「大藏卿」之ヲ定ムヘシ

第十二條 兌換銀行券ノ偽造變造ニ係ル罪ハ刑法偽造紙幣ノ各本條ニ照シテ處斷ス

九年第五十七號
銀布告第五十七號
取銅則及幣等
十二年大藏省甲第
造紙幣取法
スハ第七類ニ裁

○兌換銀行券圖造描改ニ係ル分取扱方十九年九月二十八號
日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ圖造及描改ニ係ル分取扱方ノ儀
ハ「彈」明治九年四月第五十七號布告圖造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年
五月當省甲第十二號布達ニ準據スヘシ
但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行支店ヘ引
換ヲ請フヘシ

○

○横濱正金銀行條例明治二十年七月勅令第二十九號

朕横濱正金銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

横濱正金銀行條例

第一條 横濱正金銀行ハ有限責任ニシテ其負債ニ對シテ株主ノ負擔スヘキ義務ハ株金ニ止マルモノトス

第二條 横濱正金銀行ハ本店ヲ横濱ニ設置ス又内外國ニ於テ貿易上要用ナ

横濱正金銀行條例

ル地ニ支店又ハ出張所ヲ設置シ又他ノ銀行ト「コルレスボンド」ヲ締約スルコトヲ得但支店出張所ヲ設置若クハ廢止シ又ハ外國銀行ト「コルレスボンド」ヲ締約若クハ解約スルトキハ其事由ヲ大藏大臣ニ具狀シテ許可ヲ受クヘシ

第三條 横濱正金銀行ノ營業年限ハ開業ノ日即チ明治十三年二月二十八日ヨリ滿二十箇年トス但株主總會ノ決議ニ依リ營業ノ延期ヲ請願スルコトヲ得

第四條 横濱正金銀行ノ資本金ハ六百萬圓ト定メ之ヲ六萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但株主總會ノ決議ニ依リ資本金ノ増減ヲ請願スルコトヲ得

第五條 横濱正金銀行ノ株式ハ日本人ノ外賣買讓與スルコトヲ許サス

第六條 横濱正金銀行ノ株券ハ記名券ニシテ定款ニ從ヒ賣買讓與スルコトヲ得

第七條 横濱正金銀行ノ營業ハ左ノ如シ

第一 外國ノ爲替及荷爲替

第二 内國ノ爲替及荷爲替

第三 貸付

第四 諸預金及保護預

第五 爲替手形約束手形其他諸證券ノ割引又ハ其代金取立

第六 貨幣ノ交換

第八條 横濱正金銀行ハ營業ノ都合ニ依リ公債證書地金銀又ハ外國貨幣ヲ買入レ又ハ賣拂フコトヲ得

第九條 横濱正金銀行ハ政府ノ命令ニ依リ外國ニ關スル公債及官金ノ取扱ヲ爲スコトアルヘシ

第十條 横濱正金銀行ハ第七條第八條及第九條ニ記載スル事業ノ外他ノ營業ヲ爲スコトヲ許サス

第十一條 横濱正金銀行ハ左ノ場合ヲ除クノ外不動産株券其他ノ物件ヲ買

取リ又ハ引受クルコトヲ得ス

第一 銀行營業ノ爲メ地所家屋ノ必要アルトキ

第二 貸金返濟ノ爲メ負債者ヨリ之ヲ引渡シ又ハ賣却スルトキ

第三 貸金ノ抵當ニシテ裁判上公賣ニ付シタルトキ

第十二條 横濱正金銀行ハ本行ノ株券ヲ抵當ニ取リ又ハ之ヲ買戻スヘカラス但負債者其辨償ヲ怠リテ他ニ相當ノ抵當ナク若クハ返濟ノ道ナキ場合ニ於テ之ヲ抵當ニ取リ又ハ引受クルハ此限ニアラス

第十三條 第十一條第二項第三項及第十二條ノ場合ニ於テ不動産株券其他ノ物件ヲ引受ケシトキハ必ス十箇月以内ニ之ヲ賣却スヘシ但賣却代價不相當ト認メタルトキハ其事實ヲ大藏大臣ニ具申シ延期ヲ請フコトヲ得

第十四條 横濱正金銀行ハ權利者ノ請求次第ニ支拂フヘキ諸預金ニ對シ其四分ノ一以上ニ當ル準備金ヲ備ヘ置クヘシ

第十五條 横濱正金銀行取締役ハ五人以上トシ其任期ヲ一箇年トシ株主總

會ニ於テ其人員ヲ定メ五十株以上ヲ所有スル株主中ニ就キ之ヲ選舉シ大藏大臣ノ認許ヲ受クヘシ其滿期ニ當リ復選セラル、者モ亦同シ(二十二號ヲ以テ本條改正)

第十六條 頭取ハ取締役ニ於テ之ヲ互選シ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ特ニ日本銀行副總裁ヲシテ横濱正金銀行頭取ヲ兼子シメ又ハ横濱正銀行頭取ヲシテ日本銀行理事ヲ兼子シムルコトアルヘシ

銀行事務ノ都合ニ依リ取締役ニ於テ副頭取一人ヲ互選スルコトヲ得但其職權ハ頭取事故アルトキ之ヲ代理スルニ止マルモノトス
頭取取締役ノ職權及責任ハ定款ヲ以テ定ムヘシ

第十七條 横濱正金銀行ハ毎年二回定式株主總會ヲ開キ定款ニ定メタル事項ヲ決定スヘシ又臨時ノ事件ヲ議スル爲メ何時ニテモ臨時總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ出席スル者ハ會期六十日以前ヨリ株主タル者ニ限ルヘシ

第十八條 每半季利益金ヲ配當スルトキハ豫メ其割合ヲ大藏大臣ニ具申シテ認可ヲ受クヘシ

第十九條 每半季純益金總額ノ十分ノ一以上ヲ積立テ左ノ目的ニ供スヘシ

第一 資本金ノ損失ヲ補フコト

第二 配當金ノ不足ヲ補フコト

第二十條 貸金返濟ノ期限ヲ過キ到底損失ニ歸スヘキモノト認ムルトキハ其損失ト見積リタル金額ニ對シテ準備金ヲ積立ツヘシ

第二十一條 橫濱正金銀行營業上ニ於テ損失ヲ生シ資本金ノ半額以上ヲ減少シタルトキ又ハ此條例ニ背戾シタル所爲アリテ大藏大臣ニ於テ必要ト思考スルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ解散ヲ命スルコトヲ得
又株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ受クルニ於テハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得但此總會ニ於テハ株主總員二分ノ一以上ニシテ總株金二分ノ一

以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ三分ノ二以上ニ依テ決議スルモノトス

第二十二條 橫濱正金銀行ニ於テ條例定款ニ背戾スル所爲アルトキ又ハ大藏大臣ニ於テ危險ナル所爲ト認ムル事件アルトキハ大藏大臣ハ之ヲ制止シ又ハ取締役ノ改選ヲ命スルコトヲ得(二十二年勅令第十號ヲ以テ改正)

第二十三條 大藏大臣ハ特ニ監理官ヲ派遣シテ橫濱正金銀行諸般ノ事務ヲ監視セシムヘシ(二十二年勅令第十號ヲ以テ改正)

第二十四條 橫濱正金銀行ハ大藏大臣ノ命令ニ從ヒ其營業上ニ係ル計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十五條 橫濱正金銀行本支店及出張所ニ於テハ重要ノ文書ニ其本支店若クハ出張所ノ印ヲ押捺スヘシ但橫文ヲ以テ發スル文書ニハ之ヲ押捺スルコトヲ要セス

第二十六條 橫濱正金銀行ハ明治二十年七月十日ヨリ此條例ヲ遵奉シ株主總會ノ決議ヲ以テ更ニ定款ヲ制定シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ但定款

ノ改正増補ヲ要スルトキハ亦本條ニ準ス
 第二十七條 橫濱正金銀行ノ頭取取締役其他ノ役員ニシテ此條例ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス
 第二十八條 此條例ノ改正ヲ要スルコトアルトキハ三箇月以前ニ之ヲ公布スヘシ

○國立銀行條例明治九年八月
第六號布告

沿革略記 明治五年十一月第三百四十九號布告ヲ以テ國立銀行條例并
成規ヲ定ム○九年八月第六號布告ヲ以テ國立銀行條例并
成規ヲ改定ス是レ現行法ナリ

明治五年十一月 第三百四十九號布告國立銀行條例ノ儀詮議ノ次第有之別冊ノ
 通改正致シ舊條例ハ自今相廢シ候條新ニ國立銀行ヲ創立セントスル者ハ勿

十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
八號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
七號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
六號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
五號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
四號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
三號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
二號
十一
立布
告一
年一
條改
正第
一十
一號

論從來舊條例ヲ遵奉シテ創立シタル者ト雖モ右改定條例ニ準據シ大藏省へ
 出願ノ上其免許ヲ受ケ候様可致此旨布告候事

(國立銀行條例并成規畧之)

○國立銀行稅額 明治十一年九月
第二十九號布告

明治九年 第八百六號布告國立銀行條例第十五章稅額ノ儀ハ銀行紙幣下
 付高ノ千分ノ七ト相定メ本年七月ヨリ年々徵收候條此旨布告候事
 但納期ノ儀ハ一箇年兩度ニ割合前半年分ハ七月三十一日限り後半年
 分ハ一月三十一日限り其管轄廳へ可相納事

○銀行紙幣壹圓札新製發行 明治十年十二月
第九十號布告

今般新ニ銀行紙幣壹圓札ヲ製造シ從前ノ銀行紙幣ト取交セ國立銀行へ
 交付令發行候條公債證書ノ利足ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私

ノ取引上總テ無疑念授受可致尤モ新立ノ銀行ヨリ令發行候節ハ其時々「大藏卿」ヨリ可及布達此旨布告候事

但見本札ノ儀ハ其管轄廳ヨリ可相達事

○銀行紙幣五圓札新製發行明治十一年七月第十六號布告

今般新ニ銀行紙幣五圓札ヲ製造シ從前ノ銀行紙幣ト取交セ各國立銀行ヘ交付令發行候條公債證書ノ利息ト海關稅ヲ除クノ外租稅其他一切公私ノ取引上總テ無疑念授受可致此旨布告候事
但見本札ハ其管轄廳ヨリ可相達事

○鎖店國立銀行ノ貸金證書債主ノ權利ヲ定ム大藏省第十二月十四號告示
鎖店國立銀行ノ貸金其他ノ證書中跡引受人ヲシテ左ノ書式ノ裏書又ハ繼書ヲナシ處分爲致候モノハ爾後裏書又ハ繼書ノ記名主之カ債主タルハシ依テ右證書ニ對スル負債ハ該負債者ヨリ記名主ニ向ヒ濟方可致者

トス(要書繼書々式畧之)

○銀行會社ノ廣告ハ官報掲載ヲ請フヲ得第十八號八月
銀行會社等ノ報告類ニシテ法律規則若クハ其定款ニ因リ廣告ヲ要スルモノハ自今官報ニ掲載ヲ請フコトヲ得但其取扱手續ハ官報局長ヨリ公告スヘシ(十九年六月閣令第十八號ヲ以テ改メ)

○銀行條例明治二十三年八月法律第七十二號

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用井ルニ拘ラス

明治二十三年
法律第九號
施行期
一月二十六日
改

總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マシトスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ハ一人又ハ一會社ニ對シ資本金高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

資本金總額ノ拂込ヲ了ラサル銀行ニ於テハ一人又ハ一會社ニ對シ其拂込高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第十時ヨリ午後第四時マテトス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐僞ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受クルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

二十三年法律
第九號ヲ以テ
施行期限ヲ以
テ改メ
二十六年一月
一日

○貯蓄銀行條例 明治二十三年八月
法律第七十三號

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月
一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

貯蓄銀行條例

- 第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受
ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム
- 第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラレハ貯蓄銀行ノ業務ヲ營ムコ
トヲ得ス
- 第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノト
ス

但其責任ハ退任後一箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

- 第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本金ノ半額ヨリ少カラサル
金額ヲ利付國債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ
- 第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス
- 第一 貸付
- 第二 證券ノ割引
- 第三 國債證券及地方債證券ノ買入
- 第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ
國債證券地方債證券ヲ質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力
ニ付疑フヘキ理由ノ存セサル者二名以上ノ裏書アル爲替手形約束手形ニ
限ルヘシ
- 貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期賣買ヲ爲スコトヲ得ス
- 第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シ
テ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

○

○取引所條例 明治二十年五月 勅令第十一號

朕取引所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

取引所條例

第一章 總則

第一條 取引所ハ商業上ノ引取ヲ便利ニシ市價ヲ平準ニシ商業上公正直實ノ風ヲ養成シ商業上ノ慣習ヲ統一維持シ須要ノ報道ヲ傳播シ及取引所會員ノ間ニ生スル爭論ヲ仲裁スルヲ以テ目的トシ商業上便宜必要ノ地方ニ於テ其地方ノ商人農商務大臣ノ特許ヲ得テ設立スルモノトス

第二條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ハ重要ノ商品公債證書證券株式等ニシテ創立員又ハ取引所ノ出願ニ依リ農商務大臣ノ認可シタルモノニ限ル

第三條 取引所ヲ設立スルニハ東京大阪ニ於テハ三十人以上其他ノ地方ニ於テハ十五人以上會員タルヲ得ヘキ者創立員トナリ地方官廳ヲ經テ農商務大臣ニ願出ヘシ

第四條 取引所ハ其賣買取引スヘキ物件ニ就キ之ヲ各部ニ分チ又ハ數物件ヲ合セテ一部トシ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

取引所條例

第五條 取引所ノ創立ニ係ル費用及之ヲ維持スルニ必要ナル費用ハ會員之ヲ負擔スヘシ

取引所ハ前項ノ費用ヲ補充スル爲メ賣買取引ニ就キ相當ノ手数料ヲ領收スルコトヲ得其手数料ノ割合ハ役員之ヲ議定シテ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ手数料ハ之ヲ分配スルヲ得サルモノトス

第六條 農商務大臣ハ取引所ヲ監督シ地方長官ヲシテ之ヲ監視セシメ其賣買取引法律命令ニ違反シ或ハ公眾ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ其全部又ハ幾部ヲ停止若クハ禁止シ其賣買取引ニ關涉シタル役員ヲ罷免シ仲買人ノ營業ヲ停止若クハ禁止シ及會員ヲ一時若クハ永久ニ除名スルコトヲ得

第七條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ規約ヲ改正セシメ又ハ決議及處分ヲ停止禁止若クハ取消スコトヲ得

第八條 農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ニ對シ委員ヲ命シ其一般ノ事務ヲ監察シ取引所ニ關スル法律命令ノ施行ヲ監視シ且其役員ノ集會ヲ整理セシムルコトヲ得

第九條 取引所ハ毎日一定ノ時間ニ於テ商業上ノ集會ヲ開キ其時間外ハ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十條 本條例施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第十一條 取引所ノ賣買取引ニ關スル稅則ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 會員

第十二條 會員タルコトヲ得ル者ハ其取引所所在ノ地ニ居住スル商人ニシテ會員タルノ義務ヲ盡スコトヲ得ル者ニ限ル會員ニ非サレハ取引所ニ集會シ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 會員タル者ハ身元保證金三百圓以上三千圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第十四條 左ニ掲クル者ハ會員タルコトヲ得ス

一 婦女及未丁年者

但婦女ノ代理人未丁年者ノ後見人ハ會員タルコトヲ得

二 公權剝奪若クハ停止中ノ者

三 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者

四 第六條第十五條ニ依リ除名セラレタル者

第十五條 會員ニシテ不當ノ舉動ヲ爲シ爲メニ取引所内ニ於テ紛擾爭論ヲ醸スカ法律命令及規約ニ違反シタル不正ノ契約ヲ爲スカ又ハ故意ニ其商業上ノ責任ヲ果サ、ルトキハ役員ノ決議ヲ以テ百圓以内ノ過怠金ヲ科シ一時若クハ永久ニ之ヲ除名スルコトヲ得

第三章 役員

第十六條 取引所ニ役員ヲ置クコト左ノ如シ

一 理事長

一 理事

一 常置委員

第十七條 役員ハ一箇年ヲ以テ任期トシ會員中ヨリ投票ヲ以テ選舉シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但理事長及理事ハ會員ノ決議ニ由リ會員外ヨリ選舉スルコトヲ得

役員任期中ト雖モ其職務ヲ盡サ、ルカ又ハ不正ノ所爲アルトキハ會員ノ決議ヲ以テ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ退職セシムルコトヲ得

第十八條 理事長及理事ハ取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ許サス

第十九條 役員ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ農商務大臣ノ認可ヲ經其業務ニ關シ規約ヲ定ムルコトヲ得

第四章 仲買人

第二十條 取引所ニ仲買人ヲ置ク仲買人ハ他人ノ委託ニ由リ賣買取引ヲ爲スヲ以テ業トシ自己ノ爲メニ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 仲買人ノ營業ハ一部ニ限リ數部ヲ兼ヌルコトヲ得ス

第二十二條 仲買人タラント欲スル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ受ケタルトキハ免許料金五十圓ヲ納ムヘシ

第二十三條 仲買人タルヘキ者ハ會員ニシテ營業保證金一千圓以上二萬圓以下ヲ差出スコトヲ要ス

第二十四條 仲買人ニシテ第十五條ニ掲クル所爲アルトキハ役員ノ決議ヲ以テ二百圓以内ノ過怠金ヲ科シ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトヲ得但營業ヲ禁止スルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十五條 仲買人ハ自ら取引所ノ賣買取引ニ從事スヘシ代理人又ハ手代ヲ使用スルコトヲ得ス

第二十六條 仲買人口錢ノ額ハ役員會議ニ於テ議決シ農商務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定ム

第五章 賣買取引

第二十七條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ直取引及定期取引ノ二様トス其方法ハ農商務省令及取引所ノ規約ヲ以テ之ヲ定ム

第二十八條 取引所ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類ニヨリ農商務大臣ハ取引所外ニ於テ取引所ノ賣買取引ト同一又ハ類似ノ方法ヲ以テ賣買取引ヲ爲スヲ禁止スルコトヲ得

第二十九條 取引所ニ於テ賣買取引シタル物件ノ相場ヲ以テ公定相場トス

第六章 仲裁

第三十條 取引所ニ於テ爲シタル賣買取引ニ關シ爭論ヲ生スルトキハ役員ニ申告シテ仲裁ヲ受クヘシ但代言人ヲ出スコトヲ得ス

第三十一條 前條ノ場合ニ於テハ常置委員ノ多數決ヲ以テ其爭論ヲ仲裁スヘシ

第三十二條 法律上ノ見解ニ關スルモノヲ除クノ外前條ノ仲裁ニ對シテ裁判所ニ上訴スルコトヲ得ス

取引所條例

第七章 罰則

第三十三條 第五條第三項第九條第十八條第二十條及第二十五條ヲ犯シ又
 ハ第二十七條ニ依リ農商務省令ヲ以テ定メタル賣買取引法ニ違ヒ賣買取
 引ヲ爲シタル者ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス
 第三十四條 第二十八條ニ依リ農商務大臣ノ禁止シタル賣買取引ヲ爲シ又
 ハ第二十九條ノ公定相場ヲ僞リタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處
 ス

附則

本條例ハ明治二十年九月一日ヨリ施行ス但米商會所條例及株式取引所條例
 ハ米商會所及株式取引所ノ營業滿期ヲ待ツテ廢止スルモノトス

○取引所條例施行細則二十年六月農商務省令第三號
 本年五月勅令第十一號取引所條例施行細則左ノ通相定ム
 取引所條例施行細則

第一章 總則

第一條 取引所ヲ設立セントスル者ハ設立願書ニ左ノ事項ヲ詳記シ創
 立員各自署名調印シ地方官廳ニ差出スヘシ
 一 取引所ノ名稱及位置
 二 設立ヲ要スル事由
 三 取引所ノ部分ケ及其各部ニ於テ賣買取引スヘキ物件ノ種類
 四 會員タルヲ得ヘキ商人ノ概數及其差入ルヘキ身元保證金額
 五 各部仲買人ノ差入ルヘキ營業保證金額
 六 賣買取引スヘキ物件集散ノ實況及將來賣買取引高ノ目算
 七 取引所設立ニ關スル費用ノ豫算額及徵收ノ方法
 第二條 地方長官前條ノ設立願書ヲ受ケタルトキハ其要否ヲ考ヘ創立
 員ノ身元ヲ糾シ意見ヲ具シ農商務省ニ進達スヘシ
 第三條 農商務大臣取引所ノ設立ヲ特許シタルトキハ特許狀ヲ下付ス
 ヘシ
 第四條 取引所設立ノ特許ヲ得タルトキハ創立員ニ於テ其創立員中ヨ
 リ委員ヲ撰定シ其氏名ヲ農商務省ニ届出ツヘシ
 委員ハ假ニ役員ノ事務ヲ執行シ取引所設立ノ特許ヲ得タル旨ヲ官報
 又ハ其地方重モナル新聞紙ヲ以テ廣告シ取引所ヲ開クニ付必要ノ準
 備ヲ爲スヘシ

第五條 會員ノ員數第一條第四項概數ノ十分ノ一以上ニ達スルトキハ總會ヲ開キ役員ヲ選舉スヘシ
役員ハ取引所ノ業務ヲ經理スル爲メ規約ヲ作り農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但自餘ノ事項ト雖モ必要ト認ムルモノハ掲載スルコトヲ得

- 一 取引所ノ名稱及位置
- 二 取引所各部ノ名稱
- 三 會員入退及除名ニ關スル規程
- 四 會員ノ權利義務
- 五 會員組合ニ關スル規程
- 六 會員ノ手代入場ニ關スル規程
- 七 役員ノ員數及其選舉ノ方法
- 八 役員ノ職務章程
- 九 仲買人開廢業及營業停止禁止ニ關スル規程
- 十 仲買人組合ニ關スル規程
- 十一 仲買人ノ補助員入場ニ關スル規程
- 十二 仲買口錢ニ關スル規程
- 十三 身元保證金及營業保證金ニ關スル規程

- 十四 賣買取引スヘキ物件ノ種類
- 十五 新株式賣買舉行ニ關スル規程
- 十六 直取引及定期取引ニ關スル規程
- 十七 賣買取引受託ニ關スル規程
- 十八 證據金ニ關スル規程
- 十九 賣買取引ノ結了ニ關スル規程
- 二十 市場整理ニ關スル規程
- 二十一 休暇日及市場開閉時刻ノ定限
- 二十二 公定相場ニ關スル規程
- 二十三 會議ニ關スル規程
- 二十四 帳簿及記録ニ關スル規程
- 二十五 取引所ノ經費收支ニ關スル規程
- 二十六 仲裁ニ關スル規程
- 二十七 違約處分ニ關スル規程
- 第七條 役員規約ノ認可ヲ得タルトキハ農商務省ニ届出ノ上賣買取引ヲ開始スヘキモノトス
- 第八條 取引所ノ位置ヲ移轉セントスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
- 第九條 取引所ニ關スル一切ノ文書ハ所名ヲ署シ役員ノ印章ヲ捺スヘシ

シ但願同届其他重要ノ文書ハ理事長之ニ署名調印スヘシ
第二章 會員

第十條 會員タラント欲スルモノハ加入申込書ニ履歷書ヲ添付シ役員ニ差出スヘシ役員ハ其履歷ヲ糺シ身元保證金ヲ差入レシメタル上加
入ヲ承諾シ會員名簿ニ記名調印セシメ會員ノ證ヲ交付スヘシ

第十一條 婦女ノ代理人若クハ未丁年者ノ後見人會員タラント欲スルトキハ加入申込書ニ履歷書及委任狀若クハ戸長ノ證認書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ル、代理人若クハ後見人ハ會員タルコトヲ得ス

第十二條 商社ノ名義ヲ以テ會員タラント欲スルトキハ代表人ヲ定メ加入申込書ニ商社ノ規約及代表人ノ履歷書ヲ添付シ役員ニ差出シ其承諾ヲ請フヘシ但條例第十四條ニ觸ル、モノハ代表人タルコトヲ得ス

第十三條 會員退去セントスルトキハ其旨ヲ役員ニ申出ツヘシ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上承諾ヲ與ヘ身元保證金ヲ返付スヘシ

第十四條 會員ハ役員ノ承諾ヲ得手代ヲシテ入場セシムルコトヲ得
第十五條 會員ハ適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組合中ヨリ委員一名ヲ選定シ役員ニ届置クヘシ

委員ハ其組合會員ノ代議人トナリ取引所總會ニ列スルモノトス
第三章 仲買人

第十六條 仲買人タラント欲スルモノハ營業願書ヲ役員ニ差出スヘシ役員ハ役員會ヲ開キ過半数ノ同意ヲ得タル上地方官廳ヲ經由シテ其願書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第十七條 農商務大臣ニ於テ仲買人タルコトヲ免許スルトキハ役員ヲ經テ銀章ヲ下付スヘシ役員ハ免許料及營業保證金ヲ差出サシメタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

第十八條 仲買人ハ取引所ニ於テ賣買立會中銀章ヲ佩用スヘシ
第十九條 仲買人ハ自己ノ名義ヲ以テ賣買約定ヲ爲シ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第二十條 仲買人ハ其部内同業者中適宜人員ヲ定メテ組合ヲ爲シ組長一名ヲ選定シ役員ノ認可ヲ受ケ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ但組長ノ氏名ハ役員ヨリ農商務省ニ届出ヘシ

第二十一條 仲買人ハ其部ノ名稱ヲ冠シ某部仲買人ト稱スヘシ
第二十二條 仲買人ハ役員ノ承諾ヲ得一名若クハ二名ノ補助員ヲシテ取引所ニ於テ其業務ヲ補助セシムルコトヲ得但補助員ハ賣買契約ヲ爲シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス

第二十三條 仲買人廢業セント欲スルトキハ其届書ヲ役員ニ差出スヘシ

取引所條例

シ役員ハ十日間其旨ヲ市場ニ揭示シ賣買取引其他計算上關係ナキヲ認メタル上營業保證金ヲ返付シ地方官廳ヲ經由シテ其届書ヲ農商務省ニ進達スヘシ

第二十四條 仲買人其資格ヲ失フタルトキハ本人又ハ相續人若クハ親族ヨリ役員ヲ經由シテ銀章ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第二十五條 仲買人銀章ヲ紛失シタルトキハ其事由ヲ詳具シ役員ノ保證ヲ得テ更ニ銀章ノ下付ヲ請フヘシ但此場合ニ於テハ手数料トシテ金拾圓ヲ上納スヘシ

第四章 身元保證金及營業保證金

第二十六條 身元保證金及營業保證金ハ取引所ニ於テ其額ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ其増額ヲ命スルコトアルヘシ

營業保證金ハ各部ニ由リ其額ヲ定ムヘキモノトス

第二十七條 身元保證金及營業保證金ハ左ニ掲クル證書ヲ以テ代用スルコトヲ得但身元保證金ノ預リ證書ハ營業保證金中ニ合算スルコトヲ得

現金ヲ以テ差入レントスルトキハ役員ノ指命スル銀行ニ預ケ入レ其預リ證書ヲ以テ役員ニ差入ルヘシ
一預金局ノ預リ證書

一公債證書

一政府ノ保證アル會社ノ株券

(公債證書ハ農商務大臣株券ハ役員ノ指定スル價格ニ據ルヘシ)

第二十八條 身元保證金及營業保證金ヲ差出シタルトキハ役員ハ預リ證書ヲ付與スヘシ其證書ハ質入書入其他抵當ト爲スコトヲ許サス

第二十九條 身元保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス又營業保證金ニ缺額ヲ生シタルトキハ之ヲ補填スルニアラサレハ會員タルノ權利ヲ失フモノトス

第三十條 營業保證金ハ之ヲ差入タル仲買人ノ業ヲ營ムコトヲ許サスヲ爲シタルトキ損害賠償ノ用ニ供スルモノトス

身元保證金ハ之ヲ差入タル會員ニ於テ其會員タルノ義務ヲ盡サ、ルトキ賠償ノ用ニ供スルモノトス

第三十一條 賣買取引上ヨリ生シタル損害ノ賠償ハ證據金及營業保證金ヲ以テ充テ猶ホ不足アルトキハ被害者ヨリ賠償ノ責ニ當ル本人ニ對シ追求スルヲ得

第五章 役員

第三十二條 理事長ハ理事ヲ率ヒテ取引所全部ノ事務ヲ總轄シ總會及役員會ノ議事ヲ整理シ理事ノ分掌ヲ定メ所屬員ヲ任免シ及規約違反者ヲ處分スルノ權ヲ有シ取引所一切ノ事務ニ付其責ニ任スルモノト

取引所條例

第三十三條 理事ハ指揮ヲ理事長ニ受テ各部ノ事務ヲ分掌シ及部下ノ
 屬員ヲ指揮監督スルノ權ヲ有ス
 第三十四條 常置委員ハ取引所全般ノ事務ニ付意見ヲ具シ理事長ヲ輔
 佐シ金錢ノ出納及他ノ諸役員ノ行爲ヲ監視スルノ權ヲ有ス
 第三十五條 理事ハ理事長事故アルトキ其事務ヲ代理スルノ任アルモ
 ノトス
 第三十六條 會員外ヨリ理事長及理事ヲ撰舉シ農商務大臣ノ認可ヲ請
 フトキハ其願書ニ履歷書ヲ添付スヘシ
 會員外ヨリ撰舉シタル理事長及理事ハ會員同額ノ身元保證金ヲ役員
 ニ差出スヘシ
 第三十七條 役員ノ印章ハ其印鑑ヲ農商務省ニ届出ノ上使用スヘシ
 第六章 賣買取引法
 第三十八條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現物見本品銘柄ニ據リ
 賣買取引定ヲ爲スヘキモノトス
 第三十九條 直取引ハ現物見本品又ハ銘柄ヲ以テ賣買取引定ヲ爲スモノ
 トス約定ヲ爲シタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ氏名數量直段等ヲ
 其部理事ニ届出テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請ヒ五日以内ニ受渡ヲ爲ス
 ヘシ

第四十條 定期取引ハ見本品又ハ銘柄ニ據リ期日ヲ定メテ賣買取引定ヲ
 爲スモノトス
 第四十一條 定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣主ヨリ其記名ノ賣渡
 證書ヲ買主ニ交付スヘシ但賣買取引定ノ高ニ應シ賣渡證書ヲ數葉ニ分
 割スルコトヲ得
 買受ケタルモノヲ他ニ轉賣セントスルトキハ證書記名者ニ其旨ヲ通
 知シ證書記名者ニ於テ更ニ證據金ノ差入ヲ請求スルトキハ一定ノ證
 據金額内ニ於テ證書記名者ノ満足スル證據金ヲ差入レシムヘシ
 第四十二條 定期取引ノ約定ヲナシタルトキハ賣買雙方ヨリ相手方ノ
 氏名約定期日數量及直段等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ其部理事ニ届出
 テ取引所ノ帳簿ニ記入ヲ請フヘシ
 第四十三條 定期取引ノ約定ヲ鞏固ナラシメンカ爲メ賣買主ノ一方ニ
 於テ證據金ノ差入ヲ必要トスルトキハ相手方ニ其差入ヲ請求スルコ
 トヲ得此場合ニ於テハ其請求者モ亦同額ノ證據金ヲ差入ルヘキモノ
 トス
 證據金ノ最上額ハ役員ニ於テ豫メ之ヲ定メ農商務省ニ届出ヘシ
 第四十四條 定期取引ノ期限ハ役員之ヲ定メ農商務省ノ認可ヲ受クヘ
 シ
 第四十五條 賣買品ノ受渡ハ其部理事立會ノ上執行完結スヘシ

第四十六條 賣買品ノ受渡ハ制法又ハ特許ニ依リ成立シタル倉庫ノ預
リ手形ヲ以テ其用ニ供スルコトヲ得

第七章 公定相場

第四十七條 公定相場ハ取引所ニ於テ日々賣買取引スル物件ノ種類ニ
依リ左ノ種別ニ從ヒ直取引ト定期取引トヲ區畫シ役員之ヲ調定シ表
ヲ作リテ市場ニ揭示スヘシ
寄付相場(賣買立會ノ最初ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)
大引相場(賣買立會ノ最終ニ賣買取引シタル一口ノ直段ヲ云フ)
最昂相場(賣買立會中最モ高キ直段ヲ云フ)
最低相場(賣買立會中最モ低キ直段ヲ云フ)
平均相場(賣買立會中相場ノ異ナルモノヲ加ヘ更ニ其數ニテ除シタル
直段ヲ云フ)

第八章 取引所經費

第四十八條 取引所ノ創立ニ係ル費用ヲ支辨スル爲メ一時負債ヲ起ス
コトヲ得此場合ニ於テハ償却ノ方法及年限ヲ定メ農商務大臣ノ認可
ヲ受クヘシ
取引所ノ經費ヲ支辨スル爲メ賣買取引上ニ就キ手数料ヲ徵收スルノ
外各會員ニ賦金ヲ課スルコトヲ得
取引所經費ノ豫算額及其賦課徵收ノ方法ハ總會ニ於テ之ヲ議定シ農

商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ
第四十九條 取引所ノ經費ハ毎年兩度收支ノ決算ヲナシ會員一同ニ報
告スヘシ

第九章 會議

第五十條 會議ヲ分テ總會役員會ノ二トナス

第五十一條 總會ハ委員一同集會シ毎年二回之ヲ開クモノトス

第五十二條 總會ニ於テ議スヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 賣買取引上ノ利害得失ニ關スル事項
- 二 取引所經費ノ豫算額及賦課徵收ノ方法
- 三 取引所維持ニ關スル事項
- 四 役員ノ撰舉

第五十三條 役員會ハ理事長理事及常置委員集會シテ之ヲ開ク其議ス
ヘキ事項ハ左ノ如シ

- 一 取引所規約ノ改正
 - 二 仲買人ノ口錢額
 - 三 取引所事務ノ整理及賣買取引ノ便否
 - 四 金錢取扱ノ方法
 - 五 臨時必要ノ事項
- 第五十四條 總會ハ委員三分ノ一以上ノ請求又ハ理事長ノ意見若クハ

取引所條例

常置委員ノ衆議ニ依リ臨時開會スルコトヲ得

第五十五條 總會ハ議員ノ半ニ滿タサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス但急遽ノ事件ハ此限ニアラス

第五十六條 會議ハ議員過半数ニ由テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十七條 會議ハ理事長之レカ議長トナルヘシ但條例第十七條後項ノ場合ニ於テハ議員中ヨリ議長ヲ選舉スルコトヲ得

第五十八條 臨時總會ヲ開カントスルトキハ開會ニ先テ議件ヲ詳記シ農商務省ニ届出ヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ開議ヲ差止め又ハ中止スルコトアルヘシ

第十章 報告

第五十九條 役員ハ左ニ掲クル件々ヲ農商務省ニ報告スヘシ

- 一 毎日公定相場表
 - 二 毎月賣買景況報告
 - 三 每半季功程及計算報告
 - 四 每半季會員入退報告
- 第六十條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引上ニ異狀アルトキハ其時々役員ヨリ農商務省ニ報告スヘシ

第十一章 帳簿

第六十一條 役員會員及仲買人ハ必要ノ諸帳簿ヲ備ヘ名目用法ヲ農商務省ニ届出ヘシ其帳簿ハ記載ノ末日ヨリ滿五ヶ年間保存スヘシ

第六十二條 役員會員及仲買人ハ毎日取扱タル事項及金錢ノ出納ヲ帳簿ニ詳記スヘシ農商務大臣ハ時宜ニ由リ帳簿ノ補正ヲ命シ又ハ記載ノ方法ヲ指示スルコトアルヘシ

第十二章 仲裁

第六十三條 仲裁ヲ請フ者アルトキハ理事長ニ於テ常置委員中ヨリ三名以上ノ掛員ヲ撰任シ理事長之カ議長トナリ仲裁ヲ爲スヘシ

第六十四條 仲裁ヲ請フ者ハ口頭又ハ書面ヲ以テスルモ妨ケナシ但掛員ニ於テ必要ト認ムル場合ニ於テハ書面ヲ出サシムルコトヲ得

第六十五條 仲裁ヲ請フモノ其取調ヲ受シルトキハ自身出頭スヘシ止ヲ得サル事故アルトキニ限り會員ハ手代仲買人ハ補助員ヲ以テ代理タラシムルコトヲ得

第六十六條 仲裁ノ言渡ヲ爲ストキハ代掛員一同其言渡書ニ記名調印スヘシ但細事ニ限リ口頭ヲ以テ言渡スモ妨ケナシ

第六十七條 掛員必要ト認ムルトキハ會員及仲買人中ヨリ證據人ヲ召喚スルコトヲ得此場合ニ於テ召喚セラレタルモノハ理由ナク之ヲ辭

取引所條例

スルコトヲ得ス

第六十八條 掛員ハ其仲裁ヲ爲シタル事件ヲ詳記シ之ヲ保存スヘシ
第六十九條 掛員ハ仲裁ニ關ズル費用ヲ曲者ヨリ差出サシムルコトヲ得

第七十條 掛員ハ會員外ノ者ヲ以テ仲裁事件ノ顧問トナシ又ハ仲裁ノ席ニ參セシムルコトヲ得

第十三章 違犯處分

第七十一條 本則ニ違犯シタル者ハ條例ニ據リ處分セララル、モノ、外ニ圓以上二十五圓以下ノ罰金又ハ二日以上二十五日以下ノ禁錮ニ處ス

○米商會所條例明治九年八月
第五百五號布告

沿革略記 明治七年十二月第三百三十八號布告ヲ以テ從來各地方ノ米油限月賣買ヲ差止メ自今會社ヲ結ヒ米穀賣買相場取引ヲ爲サントスルハ者是歲十月第三百七號布告株式取引條例ノ方法ニ倣ヒ會

二十一年勅令
第十號
米商會所條例
施行期
止スヘキ旨ヲ示ス

社規則取調其管轄廳ヲ經テ大藏省へ出願許可ヲ得ヘキモノトス○
九年八月第五百五號布告ヲ以テ更ニ米商會所條例ヲ制定ス是レ現行法ナリ

從來各地方ニ於テ差許置候米油限月賣買一切差止メ自今米穀賣買相場取引致度者ハ會社規則取調可願出旨明治七年十二月第三百三十八號ヲ以テ布告候處今般更ニ米商會所條例別冊ノ通相定候條營業致度者ハ右ニ照準可願出此旨布告候事

(別冊)

米商會所條例

第一條 緒言

第一節 米商會所ハ米穀流通ノ爲メ米商人ノ集會シテ賣買取引ヲ爲ス所ナリ而シテ協同結社之ヲ創立セントスル者ハ「農商務卿」ノ免許ヲ請フヘシ

(十四年第三十一號布告ヲ以テ本條例中ニ內務省及內務卿又ハ大藏卿トアルハ都テ農商務省及農商務卿ト改メ以下倣之)

第二節 「農商務卿」ハ地方ノ景狀ヲ察シ之ヲ創立スルノ緊要ナルヤヲ考定

シ之ヲ許可スルト否トノ權ヲ有ス

第三節 米商會所營業ハ五ヶ年ヲ以テ一期ト定ム右滿期ノ際猶之ヲ保續セ
ント望ム者ハ更ニ其趣ヲ申立「農商務卿」ノ免許ヲ請フヘシ

第二條 會所創立ノ手續

第一節 米商會所ヲ創立スルニハ發起人十人以上ニシテ資本金ノ總額三萬
圓以上タルヘシ

第二節 資本金ハ百圓ヲ以テ一株ト定メ發起人總員ニテ必資本金總高ノ半
額以上ニ當ル株數ヲ所持スヘシ

第三節 會所ノ發起人ハ創立願書ニ此會所ヲ創立セントスル地方ノ從來米
穀聚散ノ實況及ヒ將來賣買ノ目的ヲ詳悉シ各記名調印シ區戶長ノ與書ヲ
得會所創立證書及定款申合規則等ヲ添ヘ之ヲ地方官廳ヘ差出スヘシ

但創立證書中株主ノ責任ニ於テ有限或ハ無限ナルヲ明記スヘシ(十二年
四號布告ヲ以テ但書追加)

第四節 地方官廳ニ於テハ願人共ノ身元行狀ヲ檢知シ且其的目ノ利害障礙
ノ有無ヲ識別シ又會議所等ノ設ケアル地方ニ於テハ其集議ヲ取り併セテ
之ヲ參酌シ相當ト思量スルトキハ意見書ヲ添ヘ「農商務卿」ヘ具申スヘシ

第三條 開業ノ手續

第一節 發起人等ニ於テ會所創立ノ許可ヲ受ケタル時ハ直ニ其旨ヲ新聞紙
又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シテ他ノ株主ヲ募ルコトヲ得

第二節 發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ
從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ選任シ其住所姓名年齡等ヲ詳記シタ
ル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ「農商務卿」ノ認許ヲ受クヘシ「農商務卿」ハ
時トシテ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ(十三年第十九號
布告ヲ以テ改正)

第三節 此頭取肝煎等ハ資本金總高ノ三分二ニ當ル現金或ハ日本政府ノ公
債證書此公債證書ハ時々相場ノ高低ヲ以テ増減スヘシト雖モ明
治七年大藏省乙第廿八號達ノ價格ヨリ減少スヘカラスヲ其地方管
廳或ハ國立銀行ニ預ケ公正ナル預リ證書ヲ乞受ケ其寫ヲ「農商務卿」ニ差

出シ開業免狀ヲ請求スヘシ

第四節 會所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告シ始メテ之ニ從事スルコトヲ得

第四條 社印ノ用方并印鑑差出方等ノ手續

第一節 開業免狀ヲ得テ其商業ヲ創メントスルニ當リ會所ノ印ヲ刻シ頭取以下諸役員ノ印ト共ニ其印影ヲ一纏メニシテ「農商務卿」ニ差出スヘシ若シ改刻スル者アルトキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第二節 會所ノ諸願何届又ハ諸證書約定書及ヒ往復ノ文書等ニ至ルマテ會所一般ニ關スル事ハ其會所ノ名義ヲ用ヒ會所ノ印ヲ捺シ頭取肝煎等之ニ署名加印スヘシ

第五條 役員ノ程限

第一節 會所ノ役員ト稱スル者左ノ如シ

頭取

副頭取

肝煎

以下支配人書記等ノ名義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ會所ノ都合ニ任ス

第二節 會所ノ役員タル者ハ該會所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人ト爲ルコトヲ許サス

第三節 右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ選舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推選シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ「農商務卿」ノ認許ヲ受テ新舊交代セシムヘシ「農商務卿」ハ時トシテ其改選ヲ命スルコトアルヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ改正)

第六條 役員ノ職務

第一節 頭取ハ會所ノ事務ヲ總轄シ他ノ役員ヲ指揮シ會所一切ノ責ニ任ス

第二節 頭取ハ肝煎分掌ノ事務ヲ定ムヘシ

第三節 副頭取ハ頭取ヲ助ケテ其事務ヲ共成シ時トシテハ其代理ノ任ニ當ルヘシ

第四節 肝煎ハ支配人書記等ノ役名ヲ議定シ其者等分掌ノ課程及ヒ俸給ヲ定メ社中差違ノ事ヲ判決シ金穀ノ出納ヲ管理シ株主ノ衆議ヲ取ラントスル事柄アル時ハ之ヲ招集スルコトアルヘシ

第五節 肝煎ハ毎月何回ト定メタル會議ノ議員トナルヘシ

第六節 肝煎ハ其同僚中又ハ頭取ニ於テ職任ニ不適當ノ行ヒアルカ又ハ之ヲ怠ル者アルトキハ臨時委員ヲ定メ次ノ肝煎會議ノ日ニ無名投票ヲ以テ三分ノ二以上ノ説ニ從ヒ之ヲ退職セシムルコトヲ得

第七條 株主ノ權利制限及株式讓渡ノ手續

第一節 株主ハ會所ノ本主ニシテ會所資本ノ一部ヲ入金シ其入金高二應シタル株券ヲ所持シ以テ株數相當ノ權利ヲ有シ營業上ノ損益ヲ負擔スル者

ナルガ故ニ時々ノ景況ニ着目シ金員及ヒ出納勘定帳簿ヲ檢閲セント求ムルノ權アリ

第二節 株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス(十三年第十九號布告ヲ以テ正改)

第三節 株主ハ何等ノ事故アルトモ會所解散ノ期ニ至ラサル時間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ス

第四節 株主ハ肝煎ノ承認ヲ受タル上ニテ其所持ノ株式ヲ賣渡シ讓與ヘ又ハ質入抵當ト爲スヲ得ヘシ但其質入抵當ト爲シタル時間ハ總會議事ノ時發言ノ權ナク又役員ノ選舉ニ應スルヲ許サス

第五節 株主其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓與ヲ爲ス時ハ其賣買授受雙方ヨリ連印ノ證書ヲ會所ニ差出スヘシ會所ハ此證書ヲ受取リタル時ニ株主帳ノ姓名ヲ書改ムヘシ若シ右手續ヲ爲サル間ハ證書賣買授受ノ効ナキ者

第八條 仲買人入社ノ手續

第一節 仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所々在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而シテ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ「農商務卿」ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ(十三年第十九號 布告ヲ以テ改正)

身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ(十三年號布告ヲ以テ改正)

第二節 仲買人タルモノハ他人ノ依頼ヲ受ルニアラサレハ賣買取引ヲナスコトヲ得ス其賣買取引ニ付會所ニ對シ自己ノ名義ヲ以テシ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負擔スヘシ但一口ノ取引ニ付賣買雙方ノ依頼ヲ受クルヲ得ス(十五年第二十六號 布告ヲ以テ改正)

第三節 仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推選シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭ト爲シ組合中一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ(十三年第十九號 布告ヲ以テ改正)

第四節 仲買人退社セントスルキハ其旨趣ヲ書面ヲ以テ肝煎ニ申出ヘシ肝煎ハ之ヲ受ケテ十日間之ヲ會所ニ張出シ置キ會所ニ連帶シタル計算上ノ關係ナキヲ認メタル上ニテ其退社ヲ許シ身元金ヲ返付シテ證人ノ責任ヲ解クヘシ

第九條 商會所一般ノ規則

第一節 外國人ヲ株主并仲買人ト爲スコトヲ得ス(十五年第廿六號 布告ヲ以テ改正)

第二節 會所ニ於テ賣買取引ヲ爲スモノハ其會所ノ仲買人ニ限ルヘシ(十五年第廿六號 布告ヲ以テ改正)

第三節 會所ニ於テハ貸附金ヲナスヘカラス又仲買人ノ身元金及證據金ヲ使用スヘカラス(十五年第廿六號 布告ヲ以テ追加)

第四節 會所ハ此條例ノ旨趣ニ基キ賣買主雙方ノ約定ヲ履行セシムルノ責

任アルモノトス(十五年第廿六號
布告ヲ以テ追加)

第五節 會所ハ左ノ場合ニ於テハ賣買ノ違約人トシテ會所限處分スルヲ得(十五年第廿六號
布告ヲ以テ追加)

第一 賣買主雙方若クハ一方其會所ニ差入ヘキ證據金ノ差入方ヲ忘リタルトキ

第二 賣買主雙方若クハ一方其取引約定ノ期日ニ至リ其約定ヲ執行セザルトキ

第三 會所ニ於テ定メタル現米検査ノ方法及受渡上ノ期約ニ背キタルトキ

第六節 會所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ會所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トナ其者ノ證據金及身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ仍ホ其損失ヲ償フ能ハサルトキハ會所ニ於テ其責ニ任スヘシ(十五年第廿六號
布告ヲ以テ追加)

第十條 賣買取引ノ手續

第一節 會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分チ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス(十三年
號布告ヲ以テ改正)

第二節 現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ(十三年第十九號
布告ヲ以テ改正)

第三節 定期賣買ヲ約定シタル片ハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此證據金ハ少クトモ約定代金高十分ノ一ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追證據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ增證據金ヲ差入シムヘシ(十三年第十九號布告ヲ以テ改正
十五年第六十六號
布告ヲ以テ約定代金十分ノ二ヲ十分ノ一ト改ム)

第四節 定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ

至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ヲ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スコトヲ得(十三年第十九號布告ヲ以テ改正)

第十一條 手数料ノ定規(十八年第三十六號布告ヲ以テ本條各節共改正)

第一節 會所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ會所ニ於テ相當ノ額ヲ定メ「大藏卿農商務卿」ノ認許ヲ受クヘシ

第二節 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先ツテ收受スルコトヲ得

第十二條 會議ノ規則

第一節 會所ノ會議ヲ分ツテ肝煎會議ト株主總集會トノ二類トス

第二節 肝煎會議ハ毎月何回ト定メ頭取ヲ以テ議長ト爲ス此會議ニ於テ發言ノ權ハ一人ニ付一説ト定メ衆說ヲ取りテ其議事ノ可否ヲ決ス若シ可否ノ數相半ハスルトキハ議長ノ判決ニ任カス

第三節 右會議ニ當リ出席定員ノ半ハニ充タサルトキハ其議事ヲ始ムヘカラス但急遽ノ事件ハ格別ナリトス

第四節 株主ノ總集會ハ毎年一度又ハ數度例日ヲ定メテ之ヲ開ク此集會ハ頭取肝煎ノ選舉及ヒ會所營業ノ實況計算ノ得失ヲ議スルヲ主務トス

第五節 株主五分ノ一以上ノ請求又ハ肝煎ノ衆議ニ依リテハ臨時總集會ヲ開クコトヲ得

第六節 總集會ニ於テノ發言ノ權利決議ノ方法ハ便宜ニ從テ之ヲ定ムヘシ

第七節 總集會ニ於テノ議長ハ頭取又ハ株主中ヨリ選舉スルモ妨ケナシ
第十三條 資本金増減ノ手續

第一節 會所ニ於テ資本金高ヲ増減セントスル時ハ總集會ノ決議案ヲ具シ頭取肝煎其次第ヲ詳記シ「農商務卿」ノ指揮ヲ受クヘシ

但其資本金賣買取引ノ景況ニ對シ不適當ト認ムルトキハ「農商務卿」ハ其適當ノ金額ニ増加スヘキ旨ヲ命スルコトアルヘシ(十五年第六號布告ヲ以テ但書追加)

第二節 右増減ノ許可ヲ得タル上ハ直チニ世上ニ公告シ其増減セシ各前書
ヲ取纏メタル上「農商務卿」ニ届出且地方管廳或ハ銀行ニ預ケタル營業保
證ノ金額ヲ増減スヘシ

第十四條 損益金計算ノ定規

第一節 頭取肝煎ハ毎年兩度以上營業ノ總決算ヲ爲シ其内税金并ニ積立金
其他一切ノ社費ヲ引去リ残り損益高ヲ以テ株數ニ割リ合セ之ヲ株主ニ分
賦スヘシ

第二節 右計算表ハ株主ニ分賦ノ日ヨリ十五日内「農商務卿」ニ届出且世上
ニ公告スヘシ

第十五條 納税及積金ノ規則(十八年第三十六號
布告ヲ以テ改正)

第一節 會所ハ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ税金ヲ納ムヘ
シ(十八年第三十六號
布告ヲ以テ改正)

第二節 株主等ハ配當スヘキ純益金一ケ年一割即百分ノ十以上ノ利息ニ當

ル片ハ肝煎ノ衆議ヲ以テ割賦高ノ内幾分ヲ引去リ之ヲ積立テ以テ非常準
備金ト爲スヘシ

第十六條 報告ノ定規

第一節 會所及仲買人ハ毎日取扱ノ事項并金穀出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ
記載シ且其簿記ノ方法ニ於テハ「農商務卿」ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從
フヘシ(十五年第二十六號
布告ヲ以テ改正)

第二節 會所及仲買人ニ於テ使用スル所ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之
ヲ「農商務卿」ニ届出ヘシ(十五年第廿六號
布告ヲ以テ追加)

第三節 會所ハ賣買實際ノ景況及金穀出納其他役員ノ進退并株主ノ異同仲
買人ノ退社ヲ「農商務卿」ニ報告スヘシ(十五年第廿六號
布告ヲ以テ追加)

第十七條 官員検査規則

第一節 地方長官ハ時々官員ヲ派出シ會所及仲買人營業ノ模様其他諸帳簿
并現米ノ所在其受渡ノ實況及會所ノ現金等ヲ查覈モシムヘシ又時トシテ

ハ農商務省ヨリ官員ヲ派出シ之ヲ検査セシムルコトアルヘシ若シ右検査
官員ヨリ疑問等アルトキハ會所ノ役員及仲買人等ハ逐一答辯ヲ爲サ、ル
ヘカラス(十五年第廿六號
布告ヲ以テ改正)

第十八條 諸願届其他ノ書類上達ノ定規

第一節 會所ヨリ「農商務卿」ニ差出スヘキ文書中諸願ハ一通其他ハ一通宛
ニシテ其差出方ハ地方廳ヲ經由スヘシ(十五年第廿六號
布告ヲ以テ改正)

第十九條 罰則

第一節 會所ノ役員及株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲
買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實證アル片ハ
役員并ニ本人共其輕重ニヨリ三十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス(十三年第
十九號布
告ヲ以
テ改正)

第二節 (十三年第十九號布告ヲ以テ追加)
十六年第三十號布告ヲ以テ削除)

第三節 官員検査ノ節簿冊書類ヲ差出スヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サ、

二十四年第七十
二號布告附例
十三類ニ依リ
十三類ニ依リ

ル者アル片ハ頭取又ハ其主任者へ五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十三年第
十九號布
告ヲ以テ元二節ヲ三節
ニ元三節ヲ四節ト爲ス)

第四節 會所ノ規約ニ背犯シタル役員株主仲買人ヲ會所限リ處分スルハ之
ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ルニ止ル者トス但其過怠料ハ株金身元金
ノ高二超ルヲ得ス(十五年第廿六號
布告ヲ以テ改正)

第二十條 (十五年第廿六號布告ヲ以テ追加)
同年第四十六號布告ヲ以テ削除)

右ノ通制定候事

○米商會所及株式取引所ノ賣買上ニ付處分明治十五年八月
第四十六號布告
米商會所及ヒ株式取引所ノ賣買ニ不正惡弊アルカ又ハ賣買取引上ノ景
況穩當ナラサル爲メ公共ニ妨害ヲ及ホスト認ムルトキハ「農商務卿」ハ
其會所及ヒ取引所又ハ仲買人ノ營業ノ一部又ハ全部ヲ停止若クハ禁止
シ又ハ役員ヲ退罷セシルコトアルヘシ

米商會所條例

但本年第二十六號布告米商會所條例追加第二十條ハ削除ス

○米穀金銀等竊ニ賣買取引ヲ爲ス者處分明治十三年四月
第二十一號布告

法律定規ニ違ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若クハ内
タリトモ竊ニ米穀並金銀貨幣及株式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リタ
ル現場ヲ云フ賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所
ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以
下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ因テ科シタル罰金
ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未タ發覺セサル前ニ於テ自首シタ
ルキハ其罪ヲ問ハス
右布告候事

○米商會所株式取引所ノ方法ニ倣ヒ物品ノ取引ヲ爲ス者處分明治十六
年一月十六
第四號布告

米商會所株式取引所ノ限月若クハ現場賣買ノ方法ニ倣ヒ又ハ之ニ類似
ノ方法ヲ用ヒ諸物品ノ賣買取引ヲ爲シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場
所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ總テ明治十三年
四月第貳拾壹號布告ニ據リ處分スヘシ

○米商會所及株式取引所ノ仲買人竊ニ米穀等ノ賣買ヲ爲ス者處分明治
十六年八月
第二十九號布告

米商會所及株式取引所ノ仲買人ニシテ竊ニ米穀並金銀貨幣公債證書株
式ノ限月若クハ現場定期ヨリ起リタ
ル現場ヲ云フ賣買又ハ其類似ノ取引ヲ爲シタル
者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若クハ其賣買取引ヲ誘助
シタル者ハ五拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ米商會所條
例及株式取引所條例ノ手續ヲ爲サシム

○米穀限月并現場取引ハ米商會所内ニ限ル
大藏省甲第三十二號布達
 米穀限月賣買ノ儀ハ明治九年第五百五號公布ノ趣有之該條例ニ遊ヒ會所
 ヲ設ケ營業候儀ハ其處ニ依リ許可相成候處右限月并ニ現場取引現買會所
 フテ賣買取引ハ米商會所内ニ限リ差許サレ候儀ニテ會所ノ支社出張所
 ヲ取設ケ又ハ仲買人ノ分店代理人取次人等ヲ置候儀不相成ハ勿論渾テ
 會所外ニ於テハ仲買人タリ其業務取扱候儀一切不相成筋ニ候條心得
 違無之様可致此旨布達候事三十三號大藏省甲第三十八號布達
 ○米商會所株式取引所ノ仲買人認許料納付方第十號布達
 米商會所及株式取引所ノ仲買人ト爲ラント欲スル者農商務卿ノ認許ヲ
 得タルトキハ認許料トシテ金三十拾圓ヲ農商務省ニ納ムヘシ
 ○各米商會所株式取引所仲買人員定限農務省第七號告示
 米商會所株式取引所仲買人員之儀米商會所ハ東京百名大阪七十五名其
 他ハ一箇所三十名株式取引所ハ東京橫濱ハ一箇所七十名大阪神戸ハ一
 箇所六十名ヲ以テ限トシ其餘ハ自今不及認許候條此旨告示候事農務省
 第十號告示

二十一年新全第
 本條例ハ以テ第
 一節ヲ待テ第
 二節ヲ待テ第
 三節ヲ待テ第
 四節ヲ待テ第
 五節ヲ待テ第
 六節ヲ待テ第
 七節ヲ待テ第
 八節ヲ待テ第
 九節ヲ待テ第
 十節ヲ待テ第
 十一節ヲ待テ第
 十二節ヲ待テ第
 十三節ヲ待テ第
 十四節ヲ待テ第
 十五節ヲ待テ第
 十六節ヲ待テ第
 十七節ヲ待テ第
 十八節ヲ待テ第
 十九節ヲ待テ第
 二十節ヲ待テ第
 二十一節ヲ待テ第
 二十二節ヲ待テ第
 二十三節ヲ待テ第
 二十四節ヲ待テ第
 二十五節ヲ待テ第
 二十六節ヲ待テ第
 二十七節ヲ待テ第
 二十八節ヲ待テ第
 二十九節ヲ待テ第
 三十節ヲ待テ第

○株式取引所條例明治十一年五月
 第八號布告

沿革略記

明治七年十月第七號布告ヲ以テ株式取引條例ヲ制定ス○
 十一年五月第八號布告ヲ以テ前條例ヲ廢シ更ニ株式取引所
 條例ヲ制定ス是レ現行法ナリ

明治七年十月第七號布告株式取引條例相廢シ更ニ別冊ノ通相定候條此旨布
 告候事

(別冊)

株式取引所條例

第一章 株式取引所創立及開業ノ事

第一條 株式取引所ハ株式仲買人ノ集會シテ日本政府ノ諸公債證書及日本
 政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并諸會社ノ株券等ヲ賣買取引スル
 所ナリ而シテ之ヲ創立セントスルモノハ其創立願書へ其地方長官ノ與書
 ナ受ケ之ヲ農商務省へ差出シ「農商務卿」ノ允許ヲ請フヘシ十四年第四十
 三號布告ヲ以テ
 本條例中大藏省トアルハ農商務省大
 藏卿トアルハ農商務卿ト改ム以下倣之

株式取引所條例

第二條 此條例ヲ遵奉シテ株式取引所ヲ創立スルニハ其發起人少クトモ拾名以上ニシテ其資本金額ハ拾萬圓以上タルヘシ而シテ其資本金總高ノ半數以上ニ當ル金額ヲ右發起人總員ニテ出スヘシ(十三年第五十七號布告ヲ以テ資本金額拾萬圓ニ改ム)

第三條 「農商務卿」ハ此創立願書ヲ受領シテ其許可スヘキヤ否ヲ考案シ或ハ之ヲ許可シ或ハ之ヲ許可セサルコトアルヘシ

第四條 發起人右創立許可ヲ受クルニ於テハ諸般ノ規定ヲ議定シテ創立證書及定款申合規則各二通ヲ製シ株主一同記名調印ノ上地方長官ノ奥書證印ヲ受ケ之ヲ農商務省ヘ差出スヘシ

但創立證書及定款等ハ創立許可ヲ得タル日ヨリ遅クトモ三ヶ月間ニ差出スヘシ若シ右期限内ニ差出サ、ルキハ其許可ハ無効ニ屬スヘシ

第五條 右創立證書及定款申合規則ハ左ノ主旨ニ從ヒ各取引所ノ便宜ニ依テ之ヲ制定スヘシ然レモ必ス此條例ノ旨趣ニ抵觸スルヲ得サルヘ

創立證書ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同決定シタル綱領ノ條件及ヒ其責任ノ有限或ハ無限有限責任トハ負債償却ノ義務ニ於テ該取引所ノ株任トハ株主一同相連帶シテ各自ノ資力ヲ竭スニ至ルヲ云フヲ明記シ必ス之ヲ遵守踐行スヘキ旨ヲ政府ニ對シ保證スルモノナリ

定款ハ取引所ヲ創立スルニ付株主一同其取引所ノ便宜ヲ商量決定シテ互相確守スヘキ約束條款ヲ記載スルモノナリ
申合規則ハ賣買取引ニ付賣買主雙方ノ間ニ於テ取引所ニ對シ確守スヘキ規程ヲ記載スルモノナリ

第六條 「農商務卿」ハ右創立證書及定款申合規則ヲ檢案シテ不都合ナシト思考スルニ於テハ之ニ奥書證印ヲ加ヘ免狀ト共ニ之ヲ其取引所ニ下付シテ開業ヲ許スヘシ

但爾後取引所ノ都合ニヨリ其創立證書及定款申合規則ヲ改正加除セン

トスルトキハ其時々「農商務卿」ノ認許ヲ受クヘシ

第七條 取引所ハ開業前ニ於テ其營業保證ノ爲メ資本金高ノ三分二以上ニ當ル現金又ハ公債證書(農商務省ヨリ指定)ナル價格ヲ以テ(農商務省ニ差出シ預置クヘシ)

但シ開業免狀ヲ得タル後滿五ヶ月ニ至リ猶ホ本文ノ手續ヲ爲サヌ又ハ開業セサルトアルトキハ其免狀ハ取消タルヘシ

第八條 取引所ハ開業ノ日ヨリ滿五ヶ年ノ間其營業ヲ保續スルヲ得ヘシ右滿期ニ至リ尙ホ營業セント欲スルトキハ更ニ允許ヲ受クヘシ

第九條 取引所ニ於テ開業免狀ヲ受ケタル上ハ其免狀并ニ創立證書ノ寫ヲ添ヘ何月何日ヨリ其商業ヲ創ムヘキ旨ヲ新聞紙又ハ其他ノ方法ヲ以テ世上ニ公告スヘシ

第二章 株主并ニ株手形ノ事

第十條 各株主ヨリ入金シタル金額ハ分テ百圓以上一定ノ株式トナシ株手

形ヲ製シ其株主タルモノヘ之ヲ交付スヘシ

第十一條 株主ハ其取引所ノ營業時間ハ何時ニテモ其金員及ヒ諸帳簿ヲ檢閱スルヲ得ヘシ

第十二條 株主ハ何等ノ事故アリトモ其取引所解散ノ期ニ至ラサル間ハ其株金ヲ取戻スヲ得ヌ

第十三條 株主ハ其取引所ノ承認ヲ得タル上其所持ノ株式ヲ賣渡シ又ハ讓渡シヲナスヲ得ヘシ

第十四條 株主タルモノハ其取引所ノ役員タラサル時間ハ何時ニテモ仲買人タルヲ得ヘシト雖モ仲買人トナリタル片ハ仲買人ノ規則ヲ遵守スヘシ而シテ賣買上ニ於テハ之ヲ仲買人ト稱スヘシ

第三章 仲買人ノ事

第十五條 丁年ニシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ「農商務卿」

十六年第九
部二載ス
取分方
金銀貨
布米穀等
及仲買人
等買者

十六年第八
號布仲買人
認許料參看本
類ニ載ス

十六年農商務
省第七號告示
仲買人人員ヲ
定ム參看本類
ニ載ス

ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ(十三年第二十號
布告ヲ以テ改正)

仲買人ハ他人ノ委托ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問

ハス取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ(十三年第二十
號布告ヲ以テ

加追)

第十六條 株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以

上タルヘシ(十三年第二十號
布告ヲ以テ改正)

第十七條 仲買人ハ丁年者ニ限ルヘシ且ツ一度身代限ノ處分ヲ受ケタル者

ハ其負債ノ義務ヲ免レタル實證アルニ非サレハ入社ヲ許サ、ルヘシ

第四章 役員ノ事

第十八條 取引所ノ役員ト稱スルモノハ左ノ如シ

頭取

肝煎

其他支配人書記方計算方等ノ各義ヲ以テ役員ヲ定ムルハ取引所ノ便宜

ニ任ス

第十九條 取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定期ニ

從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ選舉シ肝煎ハ其同條中ヨ

リ頭取壹人ヲ推舉シ其住所姓名年齢等ヲ「農商務卿」ニ具申シテ其認許ヲ受

クヘシ「農商務卿」ハ時トシテハ其改選ヲ命スルヲアルヘシ(十三年第二十號
布告ヲ以テ改正)

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアラサル者ヲ

選任スルコトヲ得(十三年第二十號
布告ヲ以テ追加)

第二十條 取引所役員ノ在職年限ハ一ケ年タルヘシ

第二十一條 頭取ハ取引所ノ事務ヲ總轄シ取引所一切ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 頭取肝煎ハ其仲買人賣買上ノ差違レテ解キ違約者ヲ處分スル

ノ責任アリトス

第二十三條 取引所諸役員職務上ノ責任權限等ハ其取引所ニ於テ適當ノ規

程ヲ設ケ之ヲ定款中ニ記載スヘシ

第五章 一般ノ規程

第二十四條 外國人ヲ取引所ノ株主并仲買人ト爲スコトヲ得ス

第二十五條 取引所ニ於テ株式賣買取引ヲナス者ハ其取引所ノ承認ヲ經タル仲買人ニ限ルヘシ

第二十六條 (本條ハ十四年第廿八號布告ヲ以テ刪除)

第二十七條 取引所ノ役員タルモノハ其取引所ニ於テ賣買本人又ハ仲買人トナルヘカラス

第二十八條 取引所ノ役員及ヒ仲買人ハ他ノ株式取引ヲ爲ス會社ノ役員又ハ仲買人或ハ他ノ銀行并ニ諸會社(官許ヲ經タル合本會社)ノ役員タルヲ得ス

第二十九條 取引所ハ其營業ノ爲メ緊要ナル地所家屋ヲ除クノ外地所家屋ヲ所持スルヲ許サス又之ヲ賣買スヘカラス

第三十條 政府ニ於テ賣買ヲ許シタル諸公債證書及ヒ政府ノ條例ヲ遵奉シテ發行シタル銀行并諸會社ノ株券等ノ賣買ヲ除クノ外此取引所ニ於テ一

切他ノ物件ヲ賣買シ他ノ事業ヲ營ムヘカラス

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノ

ハ「農商務卿」ニ於テ其賣買ヲ許可スルヲ得(十三年第五十七號布告ヲ以テ但書追加)

第三十一條 取引所ハ第一章第七條ニ掲ケタル營業保證ノ爲メ農商務省ヘ預クヘキ公債證書ヲ除クノ外自ラ諸公債證書諸株券等ヲ賣買シ又ハ之ヲ所持スヘカラス

第三十二條 取引所ハ諸證據金ヲ使用スヘカラス又貸附金ヲナスヘカラス

第三十三條 取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其違約ニ依リ取引所ノ取引上ニ於テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ其者ノ證據金及ヒ身元金ヲ以テ償ハシメ其者ヲ除名スルニ止ルヘシ而シテ尙ホ其損失ヲ償フコト能ハサルトキハ取引所ニ於テ其責ニ任スヘシ(十五年第六十四號布告ヲ以テ改正)

第三十四條 取引所ハ其取引所ニ於テ株式等ノ賣買ヲ認許シタル銀行并諸

會社及ヒ新立會社ノ株式ヲ賣買スルノノ依頼ヲ受ルト雖モ其事情ニヨリ
之ヲ停止シ又ハ之ヲ許否スルノ權ヲ有ス

第三十五條 取引所ノ諸願何届又ハ諸證書約定書及往復ノ文書等取引所一
般ニ關スル事件ハ頭取肝煎等コレニ記名調印スヘキハ勿論ナレモ必ス其
取引所ノ名ヲ署シ取引所ノ印ヲ捺スヘシ

第六章 賣買取引ノ事

第三十六條 取引所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現場ト定期ノ二様ニ分チ必
ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

但三ヶ月ヨリ永キ定期ノ約定ヲナスヘカラス

第三十七條 凡取引所ニ於テ賣買ノ約定ヲナシ其定期ニ係ルモノハ約定金
高百分ノ五宛ニ下ラサル證據金ヲ賣買雙方ヨリ差入ル可シ而シテ其期限
中相庭ノ高低等ニヨリテハ追證據金増證據金等ヲ差入シムルヲ得ヘ
シ

第二十八條 約定取引ノ期限ニ至ツテハ其品種ニ依リ記名書替等其他受渡
シノ手續ハ政府又ハ諸會社ノ成規ニ照シ之ヲ履行スヘシ

第三十九條 約定期限内ニ於テ之ヲ轉賣スルヲ得ヘシト雖トモ其期日ニ至
レハ必ス現物ノ受渡ヲ爲スヘシ

第四十條 賣買主ニ於テ諸證據金ノ差入レヲ怠リ又ハ期限ニ至リテ其約定
ヲ履行セサル者ハ都テ之ヲ違約人ト爲スヘシ (十五年第六十四號
布告ヲ以テ改正)

第七章 手数料ノ事

第四十一條 取引所ニ於テ賣買者雙方ヨリ領收スヘキ手数料ハ取引所ニ於
テ相當ノ額ヲ定メ「大藏卿農商務卿」ノ認許ヲ受クヘシ (十八年第三十七號
布告ヲ以テ改正)

第四十二條 手数料ハ其決算ノ時ニ至リ賣買取引ニ關係スル他ノ債主ニ先
ツテ之ヲ收受スルヲ得ヘシ

第八章 検査ノ事

第四十三條 「農商務卿」ニ於テ要用ト思考スルキハ何時ニテモ官員ヲ派遣

シ或ハ其地方長官へ達シテ其取引所ノ業体及ヒ金銀其他諸帳簿等ヲ検査セシムルコトアルヘシ

第九章 帳簿ノ事

第四十四條 取引所ハ毎日取扱ノ事項ハ勿論金銀ノ出納等凡テ之ヲ詳明正確ニ記載シ且ツ其簿記ノ方法ニ於テ「農商務卿」ノ差圖アルトキハ其差圖ニ從フヘシ

第四十五條 取引所ニ於テ製定使用スル處ノ諸帳簿ハ其名目用法ヲ詳記シ之ヲ農商務省へ届出ヘシ

第十章 諸報告ノ事

第四十六條 取引所ハ賣買實際ノ報告及金銀出納表其他役員ノ進退并株主仲買人ノ姓名等「農商務卿」ノ指命スル所ニ從ヒ時々報告ヲナスヘシ

第十一章 納税ノ事

第四十七條 此取引所ハ追テ政府ニ於テ制定施行スル所ノ收税規則ニ遵ヒ

相當ノ税金ヲ納ムヘシ

第十二章 罰則

第四十八條 取引所ノ役員及株主并仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タルモノ株主并仲買人ノ此條例ニ背戾シタルヲ不問ニ措キ又ハ背戾セシメタル實證アルトキハ役員并ニ本人トモ其事ノ輕重ニ依リ三拾圓ヨリ少カラス千圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

第四十九條 官員検査ノ節取引所役員及ヒ仲買人等簿冊書類ヲ差出スコトヲ拒ミ又ハ疑問ニ答辯ヲ爲サル者アルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ(十五年第六十四號 布告ヲ以テ改正)

第五十條 取引所ノ規約ニ背犯シタル役員及ヒ株主仲買人ヲ取引所限リ處分スルハ之ヲ除名スルカ或ハ過怠料ヲ取立ツルニ止ルモノトス(十五年第六十四號 布告ヲ以テ)
但其過怠料ハ株金身元金ノ高ニ超ルヲ得ス

○特許條例明治二十一年十二月

勅令第八十四號

沿革略記

明治四年四月新發明品專賣略規則ヲ定ム○五年三月第百五號布告ヲ以テ專賣略規則ヲ當分廢止シ向後諸物品新發明スル者アルニ於テハ地方官ニテ發明品及其工夫ノ手續等取調工部省へ届出サシム○十八年四月第七號布告ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ專賣特許條例ヲ定ム○二十一年十二月勅令第八十四號ヲ以テ前令ヲ廢シ更ニ特許條例ヲ定ム是レ現行法ナリ

朕特許條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

特許條例

第一條 新規有益ナル工術、機械、製造品及合成物ヲ發明シ又ハ工術、機械、製造品及合成物ノ新規有益ナル改良ヲ發明シタル者ハ此條例ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

特許トハ發明者ニ他人ナシテ其承諾ヲ經スシテ前項ノ發明ヲ製作、使用又ハ販賣セシメサル特權ヲ許スコトヲ謂フ

第二條 左ニ掲クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

- 一 飲食物嗜好物
- 二 醫藥並其調合法
- 三 特許出願以前公ニ用ヒラレタルモノ但試驗ノ爲メ公ニ知ラレタルコト二年以内ノモノハ此限ニ在ラス

第三條 特許ヲ受ケント欲スル者ハ一發明毎ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添へ農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 特許ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ其發明ヲ審査セシメ特許ヲ與フヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ認可ヲ經テ特許原簿ニ登錄シ特許證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 特許證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 特許ノ年限ハ五年十年及十五年ノ三種ト爲シ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第七條 公益ノ爲メ普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若クハ秘密ヲ要スルモノト認メタル發明ニハ農商務大臣ハ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若クハ之ヲ取消スコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ハ相當ト認ムル報酬ヲ發明者又ハ特許證主ニ與フルモノトス

第八條 他人ノ特許發明ヲ改良シ其改良發明ノ特許ヲ受ケント欲スル者ハ其特許證主ニ協議シ原發明ニ改良發明ヲ合セテ使用スルノ承諾ヲ經第三條ニ依リ出願スヘシ

特許證主其承諾ヲ拒ミタルトキハ其旨ヲ願書ニ記載シテ出願スルコトヲ得此場合ニ於テハ農商務大臣ハ原發明ヲ改良發明ニ合セテ使用スルノ特許ヲ改良發明者ニ與フルコトヲ得

改良發明者前項ノ特許ヲ受ケタルトキハ原特許證主ニ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ヲ與フル義務アルモノトス

第九條 特許ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 特許ヲ受ケタル發明ト雖トモ左ニ掲クルモノハ其特許ヲ無効トス

一 新規又ハ有益ナラザリシコトヲ發見セラレタルモノ

二 第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモノ

三 發明ヲ實施スルニ必要ナル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セザリシコトヲ發見セラレタルモノ

四 發明ヲ實施スルニ必要ナラサル事實ヲ故意ニ明細書ニ記載セシコト

ヲ發見セラレタルモノ

四百六十

第十一條 特許局審査官特許出願ノ發明ヲ審査シ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第十二條 前條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ審査官其不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ其査定書ヲ不服者ニ送附スヘシ

第十三條 特許局審査官特許出願ノ發明他人ノ特許出願中ノ發明ト抵觸シ又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ抵觸ノ箇所ヲ關係人ニ告知シ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ
關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許局審査官ニ付シテ發明ノ先後ヲ審査セシメ其査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第十四條 前條ノ場合ニ於テ既ニ與ヘタル特許證ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與フルトキハ其特許年限ハ前特許證登錄ノ日ヨリ起算シ其年限ニ超ユルコトヲ得ス

第十五條 第十二條ノ再査定及第十三條ノ査定ニ服セサル者ハ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十六條 特許證主其權利ノ他特許證主ノ權利ト撞著スルコトヲ發見シタルトキハ其權利ヲ確定スル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十七條 特許ヲ受ケタル發明第十條ニ該ルコトヲ發見シタル者ハ其特許ヲ無効トスル爲メ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 審判ヲ請求スル者アルトキハ特許局ニ於テ局長ハ審判長トナリ二人以上ノ審判官ト共ニ之ヲ審判スヘシ

第十九條 特許局ノ審判ニ對シテハ不服ヲ申立又ハ裁判所ニ訴フルコトヲ得ス

特許條例

四百六十一

第二十條 第十三條ノ審査及特許局ノ審判ニ關シ關係人ニ於テ證據ヲ要スルトキハ其請求ニ依リ特許局長ハ其集取ヲ「治安裁判所」ニ囑託スルコトヲ得

第二十一條 第十六條第十七條ニ係ル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十二條 特許ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入トナスコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受サル契約ハ第三者ニ對シ法律上其效ナキモノトス

第二十三條 特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ出願シ又ハ特許ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ特許ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラス

第二十四條 特許ハ左ノ場合ニ於テ其效ヲ失フモノトス
一 特許證主相當ノ事故ナクシテ特許證ノ日附ヨリ三年ヲ經テ其發明ヲ實施公行セサルトキ

二 特許證主相當ノ事故ナクシテ其發明ノ實施公行ヲ三年間中止シタルトキ

三 特許證主其特許品ヲ外國ヨリ輸入シテ之ヲ販賣シ又ハ自己ノ權利ヲ侵スヘキ物品ヲ外國ヨリ輸入シテ販賣スル者アルコトヲ知リテ之ヲ默許シタルトキ

第二十五條 特許證主特許證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第二十六條 特許證主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ特許ノ效力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其發明ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

第二十七條 特許證主其明細書中ニ自己ノ發明ニアラサル事項ヲ誤テ自己ノ發明トシテ記載セシコトヲ發見シタルトキハ其削除ヲ出願スルコトヲ得

得

第二十八條 第二十六條第二十七條ニ依リ出願スルモノアルトキハ特許局長ハ其願書ヲ特許局審査官ニ付シテ審査セシムヘシ
前項ノ場合ニ於テ特許局審査官ノ査定ニ服セサル者ハ第十二條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十九條 特許證主其物品ニ農商務大臣ノ定メタル特許標記ヲ爲スヘシ

第三十條 特許ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 特許ヲ出願スルトキ 一發明毎ニ金五圓
- 二 特許ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ 一發明毎ニ金三圓
- 三 特許證ノ再下付ヲ出願スルトキ證書 一枚 毎ニ金壹圓
- 四 特許證ノ改訂又ハ明細書中ノ削除ヲ出願スルトキ

五 審判ヲ請求スルトキ

一發明毎ニ金五圓
一事件毎ニ金七圓

第三十一條 特許證又ハ改訂特許證ヲ受クル者ハ一證書毎ニ左ノ區別ニ從ヒ特許料ヲ納ムヘシ

- 一 五年ノ特許 金拾圓
- 二 十年ノ特許 金拾五圓
- 三 十五年ノ特許 金貳拾圓

第三十二條 特許局ハ時々特許發明ノ明細書及特許公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得
第三十三條 特許ニ關スル書類ノ謄本又ハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ
第三十四條 特許ヲ侵シタル者ハ其特許證主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第三十五條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第三十六條 他人ノ特許品ヲ偽造シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知リ偽造品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者又ハ他人ノ特許工術ヲ竊用シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許證主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ使用若クハ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其輸入シタル物品ヲ使用若クハ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第三十七條 前條ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ特許證主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第三十八條 詐欺ノ所爲ヲ以テ特許證ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記若クハ之ニ類似シタル標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十

圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第三十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ使用若クハ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第四十條 特許證主其特許品ニ第二十九條ノ特許標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條 被告人特許ノ無効タルコトヲ以テ答辨セント欲スルトキハ其旨ヲ裁判所ニ申告シ其日ヨリ三十日以内ニ特許局ニ第十七條ノ審判ヲ請求スヘシ此場合ニ於テ裁判所ハ特許局ノ審判終結マテ其裁判ヲ中止スヘシ

第四十二條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第四十三條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第四十四條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

第四十五條 明治十八年四月第七號布告專賣特許條例ハ此條例施行ノ日ヨリ廢止ス但專賣特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許ハ此條例ニ依テ受ケタル特許ト同一ノ效アルモノトス

專賣特許出願ノ此條例施行ノ日ニ於テ處分ヲ終ラサルモノハ此條例ニ依リ處分ス

○特許條例施行細則二十二年一月一號 農商務省令第一號
 特許條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ
 (別冊)

- 特許條例施行細則
- 第一條 特許條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第八號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用ス
 - 第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載スヘシ
 - 一 發明ノ名稱

- 二 發明ノ目的及性質ノ要領
 - 三 圖面アルトキハ其略解
 - 四 發明ノ詳細説明
 - 五 改良發明ニ係ルトキハ其原發明トノ區別
 - 六 特許請求ノ區域
- 第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ特許請求ノ區域ヲ明了ナラシムルニ必要ナル發明ノ部分ヲ示シ改良發明ニ係ルトキハ更ニ原發明ノ改良發明ト結合スヘキ部分ヲ示スヘシ
- 第四條 特許願書及明細書圖面ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ明細書圖面ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス
- 前項期限内ニ明細書圖面ヲ差出ストキハ何年何月何日附何發明ノ願書ニ添フヘキモノナルコトヲ記シタル書面ヲ添フヘシ
- 第五條 特許條例第八條ニ依リ改良發明ノ特許ヲ願出ルトキハ願書ニ特許證主ノ承諾書若シ承諾ヲ經ル能ハサルトキハ其事由書ヲ添ヘテ差出スヘシ
- 第六條 特許條例第二十六條ニ依リ特許證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書若クハ圖面ヲ添ヘ現特許證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ

特許條例

前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第三十八條及第三十九條ノ手續ニ依リ改訂特許證ヲ送付スヘシ

第七條 特許條例第二十七條ニ依リ明細書ノ削除ヲ願出ルトキハ其願書ニ明細書ノ請求區域中削除スヘキ部分ヲ記載シテ差出スヘシ
前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ其證明書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第八條 願書ニ不完全ノ廉アリト認メタルトキハ特許局長ハ其訂正ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ訂正セシムヘシ此期限内ニ訂正ヲ爲サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第九條 特許願書及明細書圖面ノ完備シタルトキハ特許局長ハ其願書ニ順號ヲ附シ之ヲ出願人ニ通知スヘシ
出願人前項ノ通知ヲ受ケタル後其出願ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ順號ヲ記入スヘシ

第十條 特許願書ニ順號ヲ附シタルトキハ特許局長ハ之ヲ主務審査官ニ配付スヘシ(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ審査部トアルハ審査官ト改ム)
審査ハ發明ノ種類ニ從ヒ各審査官ノ擔當ヲ定置キ願書ノ順號ニ從ヒ之ニ著手スヘキモノトス(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ本項中改正)

第十一條 左ノ願書ハ他ノ特許願書ニ先チ處分ニ著手スヘキモノトス
一 特許條例第十二條ノ再審査請求ニ係ル特許願書

二 同條例第二十六條ノ改訂願書及第二十七條ノ削除願書
三 此細則第十二條ノ通知ニ依リ明細書圖面ノ訂正ヲ終ヘタル特許願書

第十二條 審査官ニ於テ明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス(二十三年農商務省令第十號ヲ以テ改正)

第十三條 審査官ニ於テ發明ノ雛形若クハ見本ヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ適當ノ雛形又ハ見本ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十四條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面又ハ雛形見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ發明ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其改訂又ハ改造ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ特許通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正又ハ改造ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第十五條 特許條例第十三條ノ抵觸ハ左ノ場合ニ於テ特許請求區域ノ全部若クハ一部撞着スルトキニ限り生スルモノトス

特許條例

一 二箇以上ノ特許出願ノ發明互ニ牴觸スルトキ
 二 特許出願ノ發明及特許發明又ハ改訂出願ニ係ル發明互ニ牴觸スルトキ
 三 二箇以上ノ改訂出願ニ係ル發明互ニ牴觸スルトキ
 四 改訂出願ニ係ル發明及特許發明互ニ牴觸スルトキ
 第十六條 牴觸ノ處分ハ審査官ニ於テ其牴觸ニ係ル發明ヲ特許スヘキモノト査定シタル後之ニ着手スヘシ
 第十七條 特許條例第十三條ノ始末書ニハ發明ヲ考案及完成シタル年月日並ニ發明ヲ圖面雛形又ハ見本等ニ作リタル年月日ヲ記載シテ其證明ヲ附シ必要ノ證據ヲ添フヘキモノトス
 第十八條 前條ノ始末書ヲ差出サシムルトキハ特許局長ハ相當ノ期限ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ
 關係人前項ノ期限内ニ始末書ヲ差出サシムルトキハ其發明ヲ特許願書ノ日附ヨリ以前ニ完成シタル旨ヲ以テ發明ノ先後ヲ争フコトヲ得ス
 第十九條 關係人始末書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ之ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ニ其事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添ヘテ差出サシムヘシ
 對手人答辯書ヲ差出シタル後審査官ニ於テ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ尙ホ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ特許局長ハ亦前

項ノ手續ヲ爲スヘシ
 第二十條 關係人始末書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルコトヲ得但對手人答辯書ヲ差出シタル後ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外其請求ヲ許サス
 第二十一條 審査官ニ於テ始末書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ處アリト認メタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ
 第二十二條 前二條ニ依リ始末書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ特許局長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ
 第二十三條 發明ノ牴觸ヲ解除セントスル者ハ査定前ニ其特許願書又ハ特許證書若シハ改訂願書ノ取消又ハ其發明ノ牴觸部分ノ削除ヲ請求スヘシ
 前項ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ特許局長ハ其牴觸ヲ解除シ之ヲ關係人ニ通知スヘシ
 第二十四條 發明牴觸ノ審査ヲ受ケタル者ハ其審査ヲ受ケタル發明ト同一ノ發明ニ就キ先ニ牴觸シタル特許願書又ハ特許證書若シハ改訂願書ニ對シテ再ヒ牴觸ノ審査ヲ受クルコトヲ得ス
 第二十五條 審判ハ書類及口頭ノ二種トシ特許條例第十八條ニ依リ審判長及二人以上ノ審判官合議ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

特許條例

口頭審判ハ關係人雙方ニ於テ請求シ若クハ審判長ニ於テ必要ト認メタルトキ公開シテ之ヲ爲スヘシ(二十年農商部令第五號ヲ以テ關)
第二十六條 審判ヲ請求スル者ハ其請求ノ要點理由及證明方法ヲ記載シタル請求書ヲ認メ特許條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シテ差出スヘシ

第二十七條 審判請求書ヲ差出シタル者アルトキハ審判長ハ其請求書ヲ對手人ニ送付シ相當ノ期限ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムヘシ(二十年農商部令第五號ヲ以テトキハノ下特許)
對手人答辯書ヲ差出シタル後尙ホ對手人ノ一方又ハ雙方ヲシテ答辯ヲ爲サシムルコトヲ必要ト認メタルトキハ審判長ハ亦前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十八條 審判請求書又ハ答辯書ヲ差出ストキハ其記載ノ事實ヲ證明スルニ必要ノ證據ヲ添フヘシ

第二十九條 審判請求書又ハ答辯書ヲ差出シタル者其請求書又ハ答辯書ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ訂正書ヲ添ヘ其訂正ヲ請求スルトトヲ得但對手人答辯書ヲ差出シタル後ハ審判長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外其請求ヲ許サス
第三十條 審判請求書又ハ答辯書ニ不明瞭ノ處アリト認メタルトキハ審判長ハ其旨ヲ差出人ニ通知シ相當ノ期限ヲ定メ訂正書ヲ差出サシムヘシ

第三十一條 審判請求書又ハ答辯書ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ審判長ハ其訂正書ヲ對手人ニ送付スヘシ
第三十二條 審判請求書始末書及牴觸又ハ審判ニ關スル答辯書並ニ訂正書ハ審判長又ハ特許局長ノ定メタル期限内ニ差出スニアラサレハ之ヲ受理セス
第三十三條 口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ其期日ヲ定メ之ヲ關係人ニ通知スヘシ
關係人前項ノ通知ヲ受ケ其期日ニ出頭セサルトキハ缺席ノ儘口頭審判ヲ終結スルモノトス
第三十四條 審判ヲ終結シタルトキハ審判長ハ其審決書ヲ關係人ニ送付スヘシ口頭審判ノ場合ニ在テハ尙ホ之ヲ言渡スヘキモノトス
第三十五條 審判ヲ請求シタル者其請求ヲ取消サント欲スルトキハ審判終結前ニ其旨ヲ申出ツヘシ
第三十六條 審判ノ請求ヲ取消シ又ハ之ヲ放棄シタル者ハ審判上敗者ト見做スヘシ但對手人ノ承諾ヲ經テ取消シタル者ハ此限ニアラス
第三十七條 特許條例第十二條ノ再審査及同條例第十五條ノ審判請求期限ハ査定書ノ日附ヨリ起算シ九十日トス此期限ヲ經過スルトキハ再審査又ハ審判ヲ請求スルコトヲ得ス

特許條例

第三十八條 特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ特許料納付用紙ヲ添ヘテ特許通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ特許料納付用紙ニ特許條例第三十一條ノ特許料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス(二十年農商務省令第五號ヲ以テ貼)
第三十九條 出願人特許料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以特許原簿ニ登錄シ其旨ヲ出願人ニ通知シ三十日以内ニ特許證ヲ送付スヘシ

第四十條 特許條例第八條第二項ノ場合ニ於テ特許證主ノ承諾ヲ經ル能ハスシテ出願シタル者ニ特許ヲ與フルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許證主ニ通知シ報酬ニ就キ協議ヲ爲サシムルニ必要ノ手續ヲ爲スヘシ其協議整ハサルトキハ特許局長ハ農商務大臣ノ相當ト認ムル報酬ノ種類數額方法等ヲ特許通知ト同時ニ出願人ニ通知シ特許原簿ノ登錄ト同時ニ之ヲ特許證主ニ通知スヘシ

第四十一條 特許證ハ第九號書式ニ依リ調製シ特許原簿登錄ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂特許證ハ第十號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(二十年農商務省令第十號ヲ以テ爲ス)
特許條例第二十五條ノ場合ニ於テ特許證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ

其事由並ニ下付ノ年月日ヲ寫書シ之ニ署名スヘシ(二十年農商務省令第六條ノ下又ハ則ル)

第四十二條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ特許證ヲ受ケント欲スルトキハ特許原簿登錄ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第四十三條 特許條例第二十二條ニ依リ賣與讓與共有又ハ書入ノ登錄ヲ請求スルトキハ第十一號及第十二號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第三十條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ(二十年農商務省令第十號ヲ以テ爲ス)
前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登錄シ約定書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第四十四條 特許局ニ差出ス書類ハ一事件毎ニ一通宛認メ之ニ差出ノ年月日及差出人ノ住所氏名明細書及圖面ニハ差出人ノ氏名ノミヲ記載シテ捺印スヘシ
審判請求書始末書及帳觸又ハ審判ニ關スル答辯書及訂正書ニハ對手人ノ住所氏名ヲモ記載シ正本一通ノ外對手人ノ員數ニ應シ副本ヲ添フヘシ

第四十五條 前條ノ書類ハ字體明瞭ニ認メ若シ其書類中文字ヲ挿入又ハ削除シ若シハ欄外ニ記入シタルトキハ之ニ認印シ地方廳ヲ經由セス直ニ特許局ニ差出スヘシ

第四十六條 特許局ニ差出シタル書類ハ其下戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十七條 特許局ニ差出ス書類等ニシテ執務時間ノ最後一時間内又ハ休日ニ到着シタルモノハ次ノ執務日ニ接受シタルモノト見做スヘシ

第四十八條 出願人代人ヲ使用スルトキハ委任狀寫ヲ添へ其旨ヲ届出ツ

代人ニ不都合ノ事アリト認メタルトキハ特許局長ニ於テ其代理ヲ差止ムヘシ

第四十九條 特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ノ不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其受取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ受取方ヲ爲サルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ハ保管中亡失毀損スルモ弁償ノ責ニ任セス(二十年以前に特許局に提出したものは二十年以内の特許期間満了後の特許局に提出したものと見做す)

第五十條 已ヲ得サル事故ノ爲メ此細則ニ定ムル期限内ニ書類見本又ハ雛形ヲ差出シ又ハ出頭シ難キトキハ其事由ヲ記載シ期限内ニ延期請求書ヲ差出スコトヲ得

前項ノ請求ヲ相當ナリト認メタルトキハ特許局長又ハ審判長ハ更ニ期限ヲ定メ之ヲ請求人及關係人ニ通知スヘシ

第五十一條 特許證主ハ特許局長ノ差圖ニ從ヒ陳列用ノ爲メ其發明ノ雛形又ハ見本ヲ差出スヘシ

形又ハ見本ヲ差出スヘシ

第五十二條 特許證主ハ特許條例第二十九條ニ依リ特許品又ハ其上包等ニ特許ノ二字特許證ノ日附及特許年限ヲ標記スヘシ

第五十三條 特許ヲ相續シタルトキ又ハ特許證主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第五十四條 特許ヲ與ヘタルトキ特許證ノ改訂又ハ明細證ノ削除ヲ許可シタルトキ特許ヲ取消シ又ハ無効トシタルトキ及其他特許ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

(書式及製圖例略ス(二十年以前に特許局に提出したものは二十年以内の特許期間満了後の特許局に提出したものと見做す))

○意匠條例明治二十一年十二月 勅令第八十五號

朕意匠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

意匠條例

第一條 工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀模樣若クハ色彩ニ係ル新規ノ意匠

ヲ按出シタル者ハ此條例ニ依リ其意匠ノ登録ヲ受ケ之ヲ専用スルコトヲ得

第二條 左ニ掲クル意匠ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 登録出願以前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヒラレタルモノ

第三條 意匠ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一意匠毎ニ明細書及圖面ヲ添ヘ

農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及圖面ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官ヲシ

テ其意匠ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ

認可ヲ經テ意匠原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及圖面

ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 意匠専用ノ年限ハ三年五年七年及十年ノ四種ト爲シ原簿登録ノ日

ヨリ起算ス

第七條 意匠ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル物品類別ニ於テ出願人ノ指定シ

タル物品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似意匠ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ願書日

附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ共ニ之ヲ登録セサルモノトス

但出願人協議ノ上連名ニテ其登録ヲ出願スルトキ又ハ其出願ヲ取消ス者

アリテ出願者一人トナリタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキ

ハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ノ登録出願ノ權

利ハ其委託者若クハ雇主ニ屬ス但別ニ契約アル場合ニ於テハ此限ニ在ラ

ス

第十一條 登録ヲ受ケタル意匠ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタル

モノ又ハ第八條第十條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録ヲ無効トス

第十二條 意匠ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十三條 意匠専用權ハ制限ヲ附シ若クハ附セスシテ賣與讓與シ若クハ共有トナシ又ハ書入ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲク受ヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十四條 特許局ノ官吏ハ在職中意匠ノ登録ヲ出願シ又ハ意匠専用權ヲ新ニ有スルコトヲ得ス但相續ニ由リ意匠専用權ヲ新ニ有スルハ此限ニ在ラズ

第十五條 登録意匠主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第十六條 登録意匠主其明細書若クハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタル

トキハ登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ圖面ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其意匠ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラズ
第十七條 登録意匠主ハ其意匠ヲ應用シタル物品ニ農商務大臣ノ定メタル登録標記ヲ爲スヘシ

第十八條 意匠ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

- 一 意匠ノ登録ヲ出願スルトキ
 - 一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金五拾錢
- 二 登録意匠ノ賣與讓與共有又ハ書入契約ノ登録ヲ請求スルトキ
 - 一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金三圓
- 三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ
 - 一 證書一枚毎ニ 金壹圓
- 四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ
 - 一 意匠ニ付物品一類毎ニ 金貳圓

意匠條例

五 審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ

金七圓

第十九條

意匠登録證又ハ其改訂登録證ヲ受クル者ハ意匠ヲ應用スル物品
一類毎ニ左ノ區別ニ從ヒ登録料ヲ納ムヘシ

一 三年ノ専用

金壹圓

二 五年ノ専用

金貳圓

三 七年ノ専用

金四圓

四 十年ノ専用

金八圓

第二十條

登録意匠ニ關スル書類ノ謄本若クハ圖面ノ調製ヲ要スル者ハ特
許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條

登録意匠ノ専用權ヲ侵シタル者ハ其意匠主ニ對シ損害賠償ノ
責ニ任スヘシ

第二十二條

前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條

他人ノ登録意匠ナルコトヲ知リ之ヲ同一物品ニ應用シテ之ヲ
販賣シタル者又ハ情ヲ知リテ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六
月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録意匠主ノ權利ヲ侵スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シテ
販賣シタル者又ハ情ヲ知リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シ
タル物品ニ登録標記若クハ類似ノ標記ヲ爲シテ販賣シタル者又ハ情ヲ知
リ其物品ヲ受託販賣シタル者ハ罰第一項ニ同シ

第二十四條

前條第一項第二項ノ場合ニ於テハ其犯罪ノ物件ヲ沒收シテ登
録意匠主ニ給付シ其既ニ賣捌キタルモノハ代價ヲ追徴シテ之ヲ給付ス

第二十五條

第二十三條第二項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ
論ス

前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ

販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 登録意匠主第十七條ノ登録標記ヲ爲スコトヲ怠リタルトキハ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第二十七條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十八條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十九條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○意匠條例施行細則農商務省令第一二號
意匠條例細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ
(別冊)

第一條 意匠條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第七號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用ス

第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ左ノ諸件ヲ記載シ圖面ニ通テ添フヘシ
一 意匠ノ名稱
二 意匠ヲ應用スル物品ノ類別及名稱
三 意匠ノ詳細説明
四 專用權請求ノ區域

第三條 圖面ニハ製圖例ニ準シ意匠ヲ明了ナラシムルニ必要ナル部分ヲ示スヘシ
寫真ヲ以テ意匠ヲ示スコトヲ得ルモノハ之ヲ圖面ニ代用スルコトヲ得

第四條 意匠登録願書ハ其意匠ヲ應用スヘキ物品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ

第五條 意匠登録願書及明細書圖面ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收證ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

第六條 意匠條例第十六條ニ依リ意匠登録證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ圖面二通ヲ添へ現意匠登録證並ニ附屬ノ明細書圖面ト共ニ差出スヘシ
前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第十條及第十一條ノ手續

意匠條例

續ニ依リ改訂意匠登録證ヲ送付スヘシ

第七條 審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス(第二十三條ノ改正令)

第八條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書圖面等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ意匠ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登録通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス

第九條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス

第十條 意匠ノ登録ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登録料納付用紙ヲ添ヘテ登録通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ

出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登録料納付用紙ニ意匠條例第十條ノ登録料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書二通圖面二通ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ差出スヘシ此期限内ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス

第十一條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ意匠原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ意匠登録證ヲ送付スヘシ

第十二條 意匠登録證ハ第八號書式ニ依リ調製シ意匠原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂意匠登録證ハ第九號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(第二十三條ノ改正令)

意匠條例第十五條ノ場合ニ於テ意匠登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ(第二十三條ノ改正令)

第十三條 出願人他人ノ記名又ハ他人ト連名ニテ意匠登録證ヲ受ケント欲スルトキハ意匠原簿登録ノ日マテニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十四條 意匠條例第十三條ニ依リ賣與讓與共有又ハ書入ノ登録ヲ請求スルトキハ第十號及第十一號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十八條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ(第二十二條ノ改正令)

前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十五條 登録意匠主ハ意匠條例第十七條ニ依リ其意匠ヲ應用シタル物品又ハ其上包等ニ登録意匠ノ四字意匠登録證ノ日附及専用ノ年限ヲ標記スヘシ

第十六條 意匠専用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録意匠主氏名ヲ變換シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ

第十七條 意匠ノ登録又ハ意匠登録證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ意匠ノ登録ヲ無効トシタルトキ其他登録意匠ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ特許公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十八條 意匠條例第七條ノ物品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一類 衣服
衣裳、外套、襯衣、帶、領、領飾、領卷、肩掛等

第二類 頭飾、服飾、帽子
袖、管、根掛等○胸飾、腕環、指環、鈕釦等○各種ノ帽子

第三類 時計及其附屬品
袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類 傘、杖及履物類
各種ノ傘、杖○下駄、草履靴等

第五類 携帶品
烟具、扇、懷中物、手提等

第六類 家具
棚、篋、筒、机、椅子、桌子、寢臺等

第七類 敷物
段通、油團、花氈、其他各種ノ敷物

第八類 燈爐及其附屬品

第九類 火鉢、燈爐、煙草盆、炭取石炭、入、火箸等
點燈器

第十類 行燈、燭臺、手燭、燈籠、ランプ、瓦斯燈、電氣燈等
建築附屬品

第十一類 障戶、扉、柵、欄、柵干等
織物及他類ニ屬セサル織物製品

第十二類 絹、綿、麻、毛等各種ノ織物○服紗、手巾、窓掛、卓袱等
他類ニ屬セサル織物、組物

第十三類 レース、打紐、飾線等
他類ニ屬セサル漆器、假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス

第十四類 飲食器、手箱、香合等
他類ニ屬セサル陶器、煉化石、瓦等モ之ニ屬ス

第十五類 飲食器、花瓶、香爐等
他類ニ屬セサル玻璃

第十六類 飲食器、紋樣玻璃等
他類ニ屬セサル七寶

第十七類 花瓶、香爐、手箱、香合等
他類ニ屬セサル金屬製品

第十八類 貴金屬、賤金屬及合金ノ各種製品

意匠條例

第十八類 他類ニ屬セサル石材製品

寶石其他石類ノ各種製品

第十九類 他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品

盆、箱、花臺、籠、籠、柱、聯、茶托、箸、硯屏、墨臺、筆筒等

第二十類 紙及他類ニ屬セサル紙製品

紋紙、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊紙、箋等○書簡筒、文匣、一閑張等

第二十一類 皮革及他類ニ屬セサル皮革製品

各種ノ紋革○文匣、馬具等

第二十二類 他類ニ屬セサル物品

第十九條 特許條例施行細則第十三條第四十四條第四十五條第四十六條

第四十七條第四十八條第四十九條第五十條及第五十一條ハ此細則ニモ

之ヲ適用ス(二十三年農商務省令第八號ヲ以テ細則ノ下第十三條ノ下及第四

十一條ノ六) (舊式並製圖例略ス(二十三年農商務省令第八號)

ヲ以テ舊式中則除却加ス)

(舊式並製圖例略ス(二十三年農商務省令第八號)

ヲ以テ舊式中則除却加ス)

○商標條例 明治二十一年十二月

勅令第八十六號

沿革略記

明治十七年六月第十九號布告ヲ以テ商標條例ヲ制定ス○二十一年十二月勅令第八十六號ヲ以テ前條例ヲ改正ス是レ現

行法ナリ

朕商標條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

商標條例

第一條 自己ノ商品ヲ表彰スル爲メ商標ヲ使用セント欲スル者ハ此條例ニ

依リ其商標ノ登録ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

商標ハ特別著明ナル圖形字體又ハ其結合ヲ以テ要部ト爲スヘシ

第二條 左ニ掲クル商標ハ登録ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

一 風俗ヲ害スヘキモノ

二 商品普通ノ名稱若クハ内外國ノ國旗章ノミヲ以テ要部トナスモノ

三 他人ノ登録商標又ハ登録出願以前ヨリ他人ノ使用スル商標ト同一若クハ類似ニシテ同一商品ニ使用セントスルモノ

第三條 商標ノ登録ヲ受ケント欲スル者ハ一商標毎ニ明細書及見本ヲ添ヘ

農商務大臣ニ出願スヘシ但其願書明細書及見本ハ特許局ニ差出スヘシ

第四條 商標ノ登録ヲ出願スル者アルトキハ特許局長ハ特許局審査官チシ

テ其商標ヲ審査セシメ登録ヲ許スヘシト査定シタルモノハ農商務大臣ノ

認可ヲ經テ商標原簿ニ登録シ其登録證下付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條 登録證ハ農商務大臣之ニ署名シ特許局長之ニ副署シ明細書及見本

ヲ添ヘ之ヲ下付スルモノトス

第六條 商標專用ノ年限ハ二十年ト爲シ原簿登録ノ日ヨリ起算ス

第七條 商標ノ専用ハ農商務大臣ノ定ムル商品類別ニ於テ出願人ノ指定シ

タル商品ニ限ルモノトス

第八條 二人以上同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用セントシテ登録ヲ

出願スル者アルトキハ願書日附ノ先ナルモノヲ登録ス其日附同キモノハ

共ニ之ヲ登録セサルモノトス但其出願ヲ取消ス者アリテ出願者一人トナ

リタルトキハ此限ニ在ラス

第九條 商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ之ヲ受ケントスル者死亡シタルトキ

ハ其權利ハ相續者ニ屬スルモノトス

第十條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ第二條ニ該ルコトヲ發見セラレタルモ

ノ又ハ第八條ニ違ヒ登録ヲ受ケタルコトヲ發見セラレタルモノハ其登録

ヲ無効トス

第十一條 商標ノ審査査定審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例ヲ適用ス

第十二條 登録商標主其營業ヲ賣與讓與シ又ハ他人ト其營業ヲ共ニスル場

合ニ限リ其商標專用權ヲ賣與讓與シ若クハ共有トナスコトヲ得此場合ニ

於テハ特許局ニ請求シ契約ノ登録ヲ受クヘシ登録ヲ受ケサル契約ハ第三

者ニ對シ法律上其効ナキモノトス

第十三條 登録ヲ受ケタル商標ト雖モ左ノ場合ニ於テハ登録ノ効ヲ失フモ

ノトス

- 一 登録商標主相當ノ事故ナクシテ商標登録ノ日附ヨリ六箇月ヲ經テ其商標ヲ使用セザルトキ
 - 二 登録商標主相當ノ事故ナクシテ其商標ノ使用ヲ一箇年間中止シタルトキ
 - 三 登録商標主其商標ヲ使用スル營業ヲ廢止シタルトキ
 - 四 登録商標主其商標ヲ使用スル商品ノ數量產地品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ
 - 五 登録商標主磨滅若クハ缺損シタル商標ヲ使用シタルトキ
- 第十四條 登録商標主其専用年限滿期ノ後其商標ヲ續用セント欲スル者ハ更ニ其登録ヲ出願スルコトヲ得
- 第十五條 登録商標主其登録證ヲ毀損若クハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ再下付ヲ出願スルコトヲ得
- 第十六條 登録商標主其明細書若クハ見本ノ不完全ナルコトヲ發見シタル

キハト登録ノ効力ヲ全クスル爲メ改訂明細書若クハ見本ヲ添へ登録證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得但其商標ノ要部ニ變更ヲ生スルモノハ此限ニ在ラス

- 第十七條 商標ニ關シ出願又ハ請求スル者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 商標ノ登録ヲ出願スルトキ
一商標ニ付商品一類毎ニ 金壹圓
 - 二 登録商標ノ賣與讓與又ハ共有契約ノ登録ヲ請求スルトキ
一商標ニ付商品一類毎ニ 金三圓
 - 三 登録證ノ再下付ヲ出願スルトキ
證書一枚毎ニ 金壹圓
 - 四 登録證ノ改訂ヲ出願スルトキ
一商標ニ付商品一類毎ニ 金貳圓
 - 五 審判ヲ請求スルトキ

一事件毎ニ

金七圓

第十八條 商標登録證又ハ其改訂登録證又ハ其續用登録證ヲ受ケル者ハ其商標ヲ使用スル物品一類毎ニ登録料金拾圓ヲ納ムヘシ

第十九條 特許局ハ時々商標公報ヲ印刷シ衆庶ノ縦覽ニ供スヘシ其請求者アルトキハ相當代價ヲ以テ之ヲ拂下クルコトヲ得

第二十條 登録商標ニ關スル書類ノ謄本ヲ要スル者ハ特許局ニ之ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ相當ノ手数料ヲ納ムヘシ

第二十一條 登録商標ノ專用權ヲ侵シタル者ハ其商標主ニ對シ損害賠償ノ責ニ任スヘシ

第二十二條 前條損害賠償ノ責ハ三年ヲ以テ期滿免除ノ期トス

第二十三條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知リ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ同一商品ニ使用シテ之ヲ販賣シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處スル者

詐欺ノ所爲ヲ以テ登録證ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録ノ文字ヲ記シタル者又ハ情ヲ知り其商品ヲ受託販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十四條 前條ノ場合ニ於テハ違犯ノ商標ヲ沒收ス其商品ト分離スヘカラサルモノハ商品ヲ破毀セシム

第二十五條 第二十三條第一項ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス前項ノ場合ニ於テ告訴人ノ請求ニ依リ裁判官ハ假ニ其告訴ニ係ル物品ノ販賣ヲ差止ムルコトヲ得

第二十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 此條例施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十八條 此條例ハ明治二十二年二月一日ヨリ施行ス

○商標條例施行細則農商部令第一三號
商標條例施行細則ヲ定ムルコト別冊ノ如シ但明治十七年六月太政官第十三號布達商標登錄願手續ハ明治二十二年二月一日ヨリ廢止ス
(別冊)

商標條例施行細則

- 第一條 商標條例ニ依リ差出ス願書ハ第一號ヨリ第五號ニ至ル書式ニ從ヒ之ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用スヘシ
- 第二條 明細書ニハ明細書文例ニ準シ商標ノ見本一箇ヲ掲ケ左ノ諸件ヲ記載シテ別ニ商標ノ見本一箇ヲ添フヘシ
 - 一 商標全部構造ノ詳細説明
 - 二 商標ノ要部
 - 三 商標ヲ使用スル商品ノ類別及名稱
 - 四 商標使用ノ方法
- 第三條 商標登錄願書ハ其商標ヲ使用スヘキ商品類別一類毎ニ各別ニ差出スヘシ
- 第四條 商標登錄願書明細書及見本ヲ受理シタルトキハ特許局長ハ出願人ニ領收書ヲ送付シ願書ノ日附ヨリ三十日ヲ經タル後願書日附ノ順ニ從ヒ審査官ヲシテ其審査ニ着手セシムヘシ

商標條例

- 第五條 商標條例第十六條ニ依リ商標登錄證ノ改訂ヲ願出ルトキハ其事由ヲ記載シタル願書ニ改訂明細書一通若クハ見本二箇ヲ添ヘ現商標登錄證竝ニ附屬ノ明細書ト共ニ差出スヘシ
- 前項ノ出願ヲ許可スルトキハ特許局長ハ此細則第九條及第十條ノ手續ニ依リ改訂商標登錄證ヲ送付スヘシ
- 第六條 審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正見本又ハ同答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス(第二十三號農商部令)
- 第七條 出願人其出願中ニ係ル願書明細書見本等ニ過誤アルコトヲ發見シタルトキハ商標ノ要部ニ變更ヲ生セサルモノニ限り其訂正ヲ請求スルコトヲ得但査定書若クハ登錄通知書ヲ發シタル後及審判中ニ係ルモノ、訂正ハ特許局長ニ於テ必要ト認メタルモノ、外之ヲ許サス
- 第八條 再審査及審判ニ關スル事項ハ總テ特許條例施行細則ヲ適用ス
- 第九條 商標ノ登錄ヲ許可スルトキハ特許局長ハ登錄料納付用紙ヲ添ヘテ登錄通知書ヲ出願人ニ送付スヘシ
- 出願人前項ノ通知書ヲ受ケタルトキハ登錄料納付用紙ニ商標條例第十條ノ登錄料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ明細書一通見本一箇及商標ノ印版ヲ添ヘ通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ差出スヘシ此期限内

ニ差出サ、ルトキハ出願ヲ無効トス
第十條 出願人登録料ヲ納付シタルトキハ特許局長ハ其納付ノ日ヲ以テ商標原簿ニ登録シ其旨ヲ出願人ニ通知シ十五日以内ニ商標登録證ヲ送付スヘシ

第十一條 商標登録證ハ第六號書式ニ依リ調製シ商標原簿登録ノ日ヲ以テ其日附ト爲シ改訂商標登録證ハ第七號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス(二十年農商務省令第九號ヲ以テ爲スト)
商標條例第十五條ノ場合ニ於テ商標登録證ヲ下付スルトキハ特許局長ハ其事由並ニ下付ノ年月日ヲ裏書シ之ニ署名スヘシ(二十三年農商務省令第九號ヲ以テ爲スト)

第十二條 商標條例第十二條ニ依リ賣與讓與又ハ共有ノ登録ヲ請求スルトキハ第八號書式ニ從ヒ請求書ヲ認メ同條例第十七條ノ手数料金額ニ相當スル登記印紙ヲ貼用シ約定書ヲ添ヘテ差出スヘシ(二十三年農商務省令第九號ト改メ)
前項ノ請求アルトキハ特許局長ハ其約定書ヲ契約原簿ニ登録シ約定書ニ登錄濟ノ證印ヲ捺シテ之ヲ請求人ニ送付スヘシ

第十三條 商標專用權ヲ相續シタルトキ又ハ登録商標主氏名ヲ變換シ若クハ其商標ノ使用ヲ廢止シタルトキハ三十日以内ニ其旨ヲ届出ツヘシ
第十四條 商標ノ登録又ハ商標登録證ノ改訂ヲ許可シタルトキ又ハ商標

ノ登録ヲ無効トシタルトキハ其他登録商標ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ特許局長ハ官報並ニ商標公報ヲ以テ之ヲ廣告スヘシ

第十五條 特許局ニ差出シタル商標ノ印版不用ニ屬シタルトキハ特許局長ハ其請取方ヲ差出人ニ通知スヘシ差出人其通知書ノ日附ヨリ九十日以内ニ請取方ヲ爲サ、ルトキハ特許局長ニ於テ適宜處分スヘキモノトス

特許局ニ差出シタル商標ノ印版ハ保管中亡失毀損スルモ辨償ノ責ニ任セス(二十年農務省令第十號ヲ以テ)
第十六條 商標條例第七條ノ商品類別ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一類 化學品及藥劑
- 酸類、鹽類、アルカリ、漂白粉、護謨、膠、燐、石鹼、酒精、グリセリン、キナエン、モルヒネ、丁酸、劑、舍利別、煎劑、丸藥、膏藥、藥油、麝香、丁子、食鹽、石灰、艾等
- 第二類 染料及顏料
- 藍、玉、藍、靛、紫、根、紅、朱、丹、綠、青、燒、青、洋、靛、白、粉、胡、粉、藤、黃、等
- 第三類 塗料
- 漆、假、漆、油、漆、澁、靴、墨、等
- 第四類 香料及燻料
- 香油、髮、膏、香、袋、香、水、炷、香、線、香、煉、香、等
- 第五類 金屬及其半加工品

- 銑鐵、假鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅板、銅線、鉛板、亞鉛板、亞鉛板、錫、合金等
- 第六類 金屬ノ製品
- 第七類 鑄物、打物、彫鏤品及編物等
- 第八類 鑲嵌、鑲、錐、針、釘、剪刀、小刀、剃刀、庖丁、齧嘴等
- 第九類 貴金屬及其製品アルミニウム金、ニッケル銀ノ製品モ之ニ屬ス
- 第十類 珠寶、真珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等及其模造品
- 第十一類 鑛物類(但石炭ハ第五十一類ニ屬ス)
- 第十二類 版石、大理石、砥石、石器等及模造品
- 第十三類 漆喰、セメント、石膏等
- 第十四類 諸種ノ陶磁器、土器、埴埴、瓦、煉化石等
- 第十五類 七寶燒
- 第十六類 玻璃及其製品

- 玻璃、燐玻璃管、彩色玻璃等
- 第十六類 機械類
- 第十七類 紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機其他諸製造機械、汽機、汽罐等
- 第十八類 犁、鋤、鍬、唐箕、耙、釘板、鐵槌、繩墨等
- 第十九類 農工器具
- 第二十類 理化學、醫術及測量等ノ器械
- 第二十一類 度量權衡
- 第二十二類 荷車、馬車、人力車、自轉車等
- 第二十三類 琴、三味線、胡弓、笛等
- 第二十四類 時計及其附屬品
- 第二十五類 銃、砲、彈丸、火藥、煙火等
- 第二十六類 蠶種、紙、繭
- 第二十七類 真綿及木棉綿
- 第二十八類 生絲、絹絲及天蠶絲、琴絲、金絲、銀絲、毛之ニ屬ス
- 第二十九類 毛絲

- 第二十九類 麻絲
- 第三十類 絹織物
- 第三十一類 木綿織物
- 第三十二類 毛織物
- 第三十三類 麻織物
- 第三十四類 絹、綿、麻、毛外、織物及各種、交織物
- 第三十五類 絲類、編物及組物
- 第三十六類 被服
- 第三十七類 諸種ノ衣服、織物製帽子、手套、足袋、織物製雨衣、袴、目利安等
- 第三十八類 諸種ノ酒、酢、醬油、醬、柑水、曹達水、水等
- 第三十九類 砂糖類
- 第四十類 諸種ノ砂糖、糖蜜、蜂蜜等
- 第四十一類 干菓子、蒸菓子、掛ヶ物、西洋菓子、餡、砂糖漬等
- 第四十二類 茶及咖啡類
- 第四十三類 烟草類
- 第四十四類 穀菜、種子及菓物類

- 第四十三類 五穀、蔬菜、葉、菓實、種子、根、珠、麴種、モヤシ等
- 第四十四類 諸種ノ挽粉、澱粉、麵類、湯波、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等
- 第四十五類 諸種ノ味噌、骨物及漬物類
- 第四十六類 貯藏食品
- 第四十七類 經節、鰯、乾鮑、海苔、昆布、佃煮、罐詰、雲丹、諸種ノ鹹製品等
- 第四十八類 凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
- 第四十九類 諸種ノ煙管、煙袋、煙筒、懷中物等
- 第五十類 紙、色紙、短冊、擬草紙、壁紙、油紙、溢紙、書簡筒、張文匣、一閑張、元結等
- 第五十一類 筆、墨、朱墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、ペン等
- 第五十二類 馬具、草包、文匣、草帶、靴、唐弓、弦等
- 第五十三類 諸種ノ炭、附木、摺附木、燈心等
- 第五十四類 油蠟類

- 諸種ノ油、蠟、蠟燭、脂肪等
- 第五十三類 肥料
- 第五十四類 干鱈、鮮粕、油粕、骨粉等
- 第五十五類 木竹材
- 第五十六類 木竹、籐製品及其漆塗、蒔繪品類
- 第五十七類 指物、挽物、曲物、桶類、編物、粗物等
- 第五十八類 角、甲、牙類ノ製品
- 第五十九類 葉及草ノ製品
- 第六十類 疊表、莖、編笠、繩、麥、藁、細工等
- 第六十一類 傘、杖、及履物
- 第六十二類 諸種ノ傘、杖、下駄、草履、鼻緒等
- 第六十三類 扇子及團扇
- 第六十四類 提燈及ランプ類
- 第六十五類 齒磨及洗粉
- 第六十六類 刷子及毬類
- 第六十七類 玩具類
- 第六十八類 花簪、鞠、棊、將、棋、人形、獨樂、揚弓、押繪、造花、骨牌等
- 第六十九類 錦繪及寫真類
- 第七十類 書籍、新聞紙、雜誌類

第六十六類 他類ニ屬セサル商品

第十七條 特許條例施行細則第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條及第五十條ハ此細則ニモ之ヲ適用ス

（書式略ス）
二十三年農商務省令第九號
農商務省告示第一號

○特許意匠商標ニ係ル印刷書類拂下代價並書類謄本手数料二十二年一月

特許條例意匠條例及商標條例ニ依リ特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 第一條 印刷書類拂下代價ハ明細書一部ニ付金貳錢五厘特許公報一部ニ付金拾五錢商標公報一部ニ付金貳錢五厘トス
- 第二條 書類ノ謄本手数料ハ十三行二十五字詰一枚ニ付金拾錢トス但字數一枚ニ滿サルモノハ一枚ヲ以テ算ス
- 第三條 圖面調製手数料ハ一枚ニ付金貳拾五錢以上金五圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル所ニ依ル
- 第四條 印刷書類ノ拂下又ハ書類ノ謄本ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出スヘシ但印刷書類ノ郵送ヲ請フ者ハ一部ニ付金貳錢ノ郵便切手ヲ請求書ニ添フヘシ
- 第五條 特許條例第三十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ

雜形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ請求書ト共ニ差出スヘシ但審査用ノ爲メ既ニ其發明ノ雜形見本又ハ粗圖並ニ明細書ヲ差出シタル者ハ請求書ノミヲ差出スヘシ

第六條 意匠條例第二十條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其意匠登錄證ノ番號及日附ヲ請求書ニ記載シテ差出スヘシ

第七條 代價及手数料ハ現金又ハ爲替券ヲ以テ當省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ(第二十三號農商務省令)

○特許意匠商標三條例ノ特許料登錄料及手数料ハ登記印紙ヲ以テ納メシ關令第十一號

特許條例意匠條例商標條例ノ特許料登錄料及特許條例第三十條意匠條例第十八條商標條例第十七條ノ手数料ハ登記印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

○第十三類 刑罰、治罪、裁判、

○刑法明治三十三年七月第三十六號布告

沿革略記

明治元年正月暗殺ヲ行フヲ嚴禁ス○同年同月賄賂ヲ以テ役人ヘ囑託スルヲ禁シ萬一密ニ餽受スル者ハ雙方急度處置ニ及フヘキ旨ヲ公布ス○同年三月暗殺ヲ行フ者ノ取締方ヲ定ム○同年四月阿片煙草ノ賣買及ヒ吞用ヲ制禁ス○同年八月贓金製造者ヲ嚴重取締ルヲ定ム○同年十月新律布令迄ハ舊律ヲ用ヒ濫刑焚刑等ノ適用ヲ改ム○同年十一月新律治定迄四刑各三等ヲ以テ假ニ輕重ヲ配當シ處置セシム○同年十二月產婆ニ墮胎ノ取扱ヲナスヲ嚴禁ス○三年正月財産沒籍法ヲ廢ス○同年八月販賣阿片烟律ヲ定ム○同年十一月北海道流所規程未タ立タサルヲ以テ姑ク流刑ヲ停メ准流法ヲ定ム○同年十二月新律綱領六卷ヲ頒布ス○六年六月第二百六號ヲ以テ改定律例ヲ公布ス○十三年七月第三十六號布告ヲ以テ刑法ヲ改定シ尋テ十四年七月第三十六號ヲ以テ十五年一月一日ヨリ施行ノ旨ヲ布告ス是レ現行法ナリ

刑法別冊ノ通改定候條此旨布告候事

以上百日以下ノ重
禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法ノ刑期新法主刑ノ短期ニ等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ
定役アル時ハ舊法ニ從フ舊法ニ於テ禁錮三十日ニ該ル者新法ニ照ラ
法ニ從ヒ禁錮三十
日ニ處スルノ類

第三條 舊法新法ノ刑共ニ短期長期アル者ハ其短期ノ短キ者ニ從フ但

其長期ノ短キ者ニ過ルコトヲ得ス舊法ニ於テ一年以上三年以下ノ懲役
以下ノ重禁錮ニ該ル時ハ新法ニ從ヒ三
月以上三年以下ノ重禁錮ニ處スルノ類

若シ舊法新法ノ刑其短期等シクシテ舊法ニ定役ナク新法ニ定役アル
時ハ舊法ニ從フ舊法ニ於テ二月以上三年以下ノ禁錮ニ該ル者新法ニ照
二月以上二年以下ノ
禁錮ニ處スルノ類

第四條 舊法ノ贖罪收贖罪若クハ罰金科料ノ金額新法主刑ノ金額内ニ
在ル時ハ新法ニ從フ但舊法ノ金額ニ過クルコトヲ得ス

第五條 舊法新法ノ罰金科料共ニ多數寡數アル者ハ其寡數ノ寡キ者ニ

從フ但其多數ノ寡キ者ニ過クルコトヲ得ス

第六條 舊法ニ於テ單ニ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金ヲ附加ス可キ時
ハ其罰金ヲ附加セス

第七條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ於テ罰金科料ニ該ル時ハ新法
ニ從フ

舊法ニ於テ贖罪收贖若クハ罰金科料ニ該ル者新法ニ照シ體刑ニ該ル
時ハ舊法ニ從フ

第八條 舊法ニ從ヒ贖罪收贖ニ處シタル者其金額ヲ延期限内ニ納完ス
ル能ハサル時ハ一圓ヲ一日ニ折算シ輕禁錮又ハ拘留ニ換フ但一圓未
滿ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第九條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ重罪ノ刑ニ處スル時ハ新
法ノ附加刑ヲ適用セス但除族追奪位記沒收ノ類ハ舊法ニ從フ

第十條 舊法ニ於テ體刑ニ該ル者新法ニ從ヒ禁錮ノ刑ニ處スル時ハ監

視ヲ附加セズ

第十一條 華士族ノ犯罪新法ニ於テ輕罪ニ該ル者舊法ニ從ヒ處斷スル時ハ其族ヲ除セズ

第十二條 新法ト舊法トヲ比照スルニハ各其本法ニ照シ加減シタル者ヲ以テ本刑ト爲ス

第十三條 舊法ニ於テ棒鎖ニ該ル者ハ仍ホ棒鎖ニ處ス

○刑法治罪法施行期日明治十四年七月第三十六號布告

○憲兵職務ニ關シ又ハ其職務ニ對スル犯罪處斷方明治十五年十二月第七十三號布告

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

○地方違警罪目發布屆出方第七十四年八月十七號

○軍人制服着用夜中無燈火乘馬ノ件第二十五年四月二十二號

○諸罰例處斷方明治十四年十二月第七十二號布告

○

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及ヒ禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及ヒ科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ咎可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ「輕罪裁判所」ニ於テ之ヲ裁判ス

但「始審裁判所」所在ノ地ヲ除クノ外ハ「治安裁判所」ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得

裁判所構成法
ニ依ル

○刑法中官廳官署官吏及官ノ印文書免狀鑑札ニ關スル條項ハ公署公吏竝公署ノ印文書及免狀鑑札ニ適用ス明治二十三年十月法律第百號

朕公署、公吏竝公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキトテ命ス
刑法中官廳、官署ニ關スル條項ハ公署ニ適用シ官吏ニ關スル條項ハ公吏ニ適用シ官ノ印、文書及免狀、鑑札ニ關スル條項ハ公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ適用ス

○竊盜罪處罰方明治二十三年十月法律第九十九號

朕竊盜ノ罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキトテ命ス

第一條 家屋其他ノ建造物外ニ於テ犯シタル竊盜ニシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ遂ケタルモ其贓額五圓ニ滿サル者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條 田野、山林、川澤、池沼、湖海ニ於テ其產物ヲ竊取セントシ又ハ牧場ニ於テ其獸類ヲ竊取セントシテ未タ遂ケサル者又ハ已ニ竊取シタルモ其贓額五圓ニ滿サル者亦前條ニ同シ

第三條 前二條ニ記載シタル贓額ハ犯罪ノ地及ヒ其時ニ於ケル物價ニ據リ裁判所之ヲ定ム但贓物現存セサルトキハ其中等ノ價額ニ據ル可シ

第二百三十九條
施行期以
二十六年一月
一ト改ム

○商法ニ關スル破産者有罪破産區別 明治二十三年十月
法律第一百一號

朕商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ

シム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス
- 二 過怠破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

○命令ノ條項違犯ニ關スル罰則 明治二十三年九月
法律第八十四號

朕命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

罰則ニ關スル破産者有罪破産區別命令ノ條項違犯ニ關スル罰則

○軍港要港規則違反者處分 明治二十三年九月
法律第八十三號

朕軍港要港規則違反者處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

明治二十三年法律第二號ニ依リ海軍大臣定ムル所ノ軍港要港規則ニ違ヒタル者ハ十一日以上一年以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○省令廳令府縣令及警察令ニ罰則ヲ附ス 明治二十三年九月
勅令第二百八號

朕省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
第一條 各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第二條 地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ勾留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

○爆發物取締罰則 明治十七年十二月
第三拾貳號布告

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

(別冊)

爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財産ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑ニ處ス
第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期徒刑又ハ有期徒刑ニ處ス

爆發物取締罰則

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫教唆煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ重懲役ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ重懲役ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 本則ニ記載シタル重罪犯アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏

若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ六月以上五年以下ノ重禁錮ニ處ス

第九條 本則ニ記載シタル重罪ノ犯人ヲ藏匿シ若クハ隱避セシメ又ハ其罪證ヲ湮滅シタル者ハ正犯ノ刑ニ一等又ハ二等ヲ減ス

第十條 本則ニ記載シタル重罪ヲ犯シタル者ニハ刑法第八十條及ヒ第八十一條ノ例ヲ用ヒス但十六歳未満ニシテ是非ノ辨別ナキ者ハ刑法ニ從フ

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備隱謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ本刑ヲ免シ六月以上三年以下ノ監視ニ付ス第五條ニ記載シタル犯罪者モ亦同シ
第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

○決闘罪處斷方明治二十二年十二月法律第三十四號

朕決闘罪ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 決闘ヲ挑ミタル者又ハ其挑ニ應シタル者ハ六月以上二年以下ノ重

禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二條 決闘ヲ行ヒタル者ハ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 決闘ニ依テ人ヲ殺傷シタル者ハ刑法ノ各本條ニ照シテ處斷ス

第四條 決闘ノ立會ヲ爲シ又ハ立會ヲ爲スコトヲ約シタル者ハ證人介添人等何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

情ヲ知テ決闘ノ場所ヲ貸與シ又ハ供用セシメタル者ハ罰前項ニ同シ

第五條 決闘ノ挑ニ應セサルノ故ヲ以テ人ヲ誹毀シタル者ハ刑法ニ照シ誹

毀ノ罪ヲ以テ論ス

第六條 前數條ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ其重キモノハ重キニ從テ處斷ス

○勳章年金褫奪停止明治十六年六月第貳拾貳號布告

勳章ヲ有スル者其榮譽ヲ汚辱スルノ所爲アルトキハ勳章及年金ヲ褫奪ス外國勳章ハ其佩用免許狀ヲ沒收ス

勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留若クハ保釋責付セサレタル時ハ勳章ヲ佩用スルコトヲ得ヌ又之ニ屬スル禮遇特權及年金ヲ受ルコトヲ得ヌ

○勳章年金褫奪及停止取扱手續明治十六年九月第三十九號達勳章年金褫奪及停止取扱手續ヲ改正スルコト

勳章年金褫奪停止

第二十一號勅令
第九十一號勅令
海軍將校分限
令ヲ以テ免
條例ヲ廢ス

左ノ如シ

第一條 勳章年金褫奪及停止取扱手續
第一項 勳章ヲ有スル者左ノ項目ニ觸ル、トキハ榮譽ヲ汚辱シタル者トス

第二項 重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者
但輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者ハ其所犯ノ情狀ニヨル

第三項 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第四項 懲戒例及免職條例ニヨリ免官セラレタル者

第五項 素行修マラス帶勳者タルノ面目ヲ汚ス者

第六項 第一條第一項ニ觸ル、者輕罪ヲ犯シタル者ナルトキハ裁判確定ノ後裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ宣告書寫ヲ添ヘ其旨ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ普通刑法第三十一條第三十二條陸軍刑法第二十八條第二十九條海軍刑法第十七條ニ依リ處分ス

第七項 第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者アルトキハ所轄長官又ハ地方官ヨリ其情狀ヲ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第八項 賞勳局總裁ハ其具申ヲ審査シ重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ハ直ニ上奏シ其輕禁錮以下ノ刑ニ處セラレタル者及第一條第二項第三項第四項ニ觸ル、者ハ議定官ノ會議ニ於テ其褫奪ノ當否ヲ論定シ褫奪スヘシ

キ者ハ奏請ス

第五條 褫奪ノ裁可アリタルトキハ賞勳局總裁ハ褫奪狀ヲ作り褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヲ經由シテ本人ヘ傳達セシム

第六條 褫奪ニ及ハサルトキハ賞勳局總裁ヨリ褫奪ノ具申ヲ爲シタル長官ヘ通知スヘシ

第七條 勳位進級セシ者ナルトキハ前級ノ勳章勳記ヲモ褫奪スヘシ年金票モ亦同シ

第八條 褫奪シタル勳章勳記年金票ハ褫奪ヲ行ヒタル官廳ヨリ賞勳局ヘ還納スヘシ但其重罪ノ刑ニ處セラレタル者ニ係ルトキハ其宣告書寫ヲ添フヘシ

第九條 勳章ヲ有スル者重罪輕罪ノ訴ヲ受ケ拘留セラレタルトキハ其年月日及ヒ事由ヲ裁判管轄長官ヨリ司法大臣又ハ陸海軍大臣ヲ經由シテ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第十條 但公訴權消滅シタルトキ若シハ放免ノ言渡ヲ爲シタルトキハ亦其事狀ヲ詳記シテ之ヲ申告スヘシ

第十一條 重罪輕罪ヲ犯シ未タ其訴ヲ受ケスト雖モ現ニ拘留セラレタルトキハ檢察官ヨリ前條ノ手續ニ從ヒ賞勳局總裁ヘ具申スヘシ

第十二條 外國勳章佩用免許狀ヲ沒收スルトキモ亦總テ此手續ニ準據スヘシ

勳章年金褫奪停止

○刑事訴訟法明治二十三年十月
法律第九十六號

沿革略記 明治二十二年九月彈正臺彈例ヲ定ム○同年十一月刑部省ニ於テ
 逃部司定則及規則ヲ定ム○三年五月彈正臺彈例ヲ更定ス○
 同年同月獄廷規則ヲ定ム○同年九月府縣ニ令シテ流以下ノ罪犯ヲ
 專斷スルヲ許シ死刑ノミ刑部省ニ伺出サシム○四年四月從來刑部
 省彈正臺ニ於テ取扱掛ノ事務一切司法省ニ引受取計フヘキ旨ヲ達
 ス○六年二月司法省第二十二號ヲ以テ裁判所斷獄則例ヲ編成シ之
 ヲ布達ス○六年六月司法省達ヲ以テ假ニ檢事職制ヲ定ム○七年一
 月第十四號達ヲ以テ檢事職制章程司法警察規則ヲ定ム○七年一
 月第三十二號達ヲ以テ司法警察事務ヲ當分使府縣ヘ委任ス○八年
 五月達ヲ以テ檢事職制章程ヲ更定ス○同年同月第九十一號布告ヲ
 以テ大審院諸裁判所職制章程ヲ定ム○同年同月第九十三號布告ヲ
 以テ刑事上告手續ヲ定ム○同年六月第三號布告ヲ以テ裁判事務
 心得ヲ定ム○九年四月第三十九號達ヲ以テ七年第十四號達司法警
 察規則ヲ廢ス○同年同月司法省第四十七號達ヲ以テ糾問判事職務

假規則ヲ定ム○同年同月司法省第四十八號達ヲ以テ司法警察假規
 則ヲ設ク○十年二月第十七號布告ヲ以テ保釋條例ヲ定ム○同年同
 月第十九號布告ヲ以テ大審院諸裁判所職制章程及控訴上告手續ヲ
 改正ス○十三年七月第三十七號布告ヲ以テ治罪法ヲ制定シ尋テ十
 四年七月第三十六號布告ヲ以テ十五年一月一日ヲ施行ノ斯日トス
 ○二十三年十月法律第九十六號ヲ以テ刑事訴訟法ヲ制定シ二十三
 年十一月一日ヨリ施行シ其日ヨリ治罪法ヲ廢ス

朕刑事訴訟法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
(刑事訴訟法略之)

○無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人明治十四年十二月
 「治罪法」ニ於テ無能力者法律ニ定メタル代人及ヒ民事擔當人ト稱スル
 者ハ左ノ通

- 無能力者
- 一 未丁年者

- 二 妻タル者
 - 三 白痴瘋癲人
 - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者
- 法律ニ定メタル代人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ親屬後見人
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者
 - 四 治産ノ禁ヲ受ケタル者ノ財産管理人
- 民事擔當人
- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
 - 二 夫タル者
 - 三 白痴瘋癲人ノ保管者

四 雇主

但雇人其雇主ノ命シタル事件ヲ行フ時

○樺戸集治監囚人輕罪以下治罪年續明治十五年三月

樺戸集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ

於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○空知集治監囚人輕罪以下治罪手續明治十五年八月

空知集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ

於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○釧路集治監囚人輕罪以下治罪手續明治十八年十二月

釧路集治監ノ囚人假出獄免幽閉ノ者トモ罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ

於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

三十八年第三十
三號布告ヲ以
テ但書消滅

圖前

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

○重罪控訴豫納金規則明治二十三年二月
法律第七號

朕重罪控訴豫納金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

重罪控訴豫納金規則

第一條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金貳拾圓ヲ豫納スヘシ

第二條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者貧困ニシテ保證金ヲ豫納スル能ハサルトキハ控訴ノ申立ト同時ニ保證金ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

第三條 保證金ノ免除ヲ請求シタル者ハ其請求ヲ爲シタル日ヨリ十四日內ニ控訴ノ趣意書ト共ニ裁判費用支辨ノ資力ナキコトヲ證スヘキ住居地市町村長ノ證明書ヲ差出スヘシ但其市町村役場三里以外ニ在ルトキハ治罪法第十九條ニ規定シタル猶豫ヲ與フ

治罪法ハ刑事訴訟法ヲ以テテ六條ニ該法第十

第四條 前二條ニ記載シタル書類ハ訴訟ニ關スル一切ノ書類ト共ニ第一審裁判所ノ檢事ヨリ控訴院ノ書記課ニ之ヲ送致スヘシ

第五條 控訴院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ保證金免除請求ノ當否ヲ決定スヘシ但控訴ノ事由ナシト認ムルカ又ハ事由アルモ實益ナシト認ムルトキハ免除ヲ與ヘサルモノトス

第六條 保證金ノ免除ナキトキハ控訴ノ申立ハ其効ナキモノトス

第七條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ第一條ノ保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ
○輕罪控訴規則明治十八年一月
第二號布告

明治十四年十二月第七十四號布告ヲ廢シ自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲スコトヲ得但治罪法中此規則ニ抵觸スル條件ハ當分ノ内施行セス

第一條 (二十三年法律第四十七號ヲ以テ削除)

第二條 (二十三年法律第四十八號ヲ以テ削除)

第三條 被告人公訴ニ關シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金拾圓ヲ豫納スヘシ (二十三年法律第四十七號ヲ以テ公訴ノ言渡ニ對シトアルヲ公訴ニ關シト改ム)

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

第五條 (二十三年法律第四十七號ヲ以テ削除)

○陸海軍治罪法ト交渉處分法明治十八年五月第十二號布告

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ牴觸スルモノハ當分施行セズ

第一條 常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條 軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍衙ニ於テ共犯人ヲ逮捕シ

タルトキハ常人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上證憑書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬長若クハ陸海軍検査官ニ送致スヘシ

第三條 敵前軍中臨戰合圍ノ地若クハ海軍諸用ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ掲クルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ
第五條 多衆ノ軍人常人鬪毆殺傷其他疑獄ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍官法司會同審問スルコトヲ得

第六條 軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス既ニ確定シタル裁判ノ効力ハ五ニ之ヲ侵スコトヲ得ス

○違警罪即決例 明治十八年九月第三拾壹號布告

明治十四年九月第四十四號布告及ヒ同年十二月第八十號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス

(別紙)

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス
第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ
又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシテ差出サシムヘシ若シ差出サル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直ニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

○罰金及追徴ニ係ル上告豫納金 明治十九年六月勅令第四十六號

朕罰金及追徴ニ係ル上告豫納金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公市セシム
罰金及追徴ノ言渡ヲ受ケタル者上告ヲ爲サントスルトキハ其罰金及追徴金ノ十分ノ一ニ當ル金額ヲ上告趣意書ニ添へ原裁判所書記局ニ預置ク可シ否ラサレハ上告ヲ爲スコトヲ得ス若シ上告不當ナルトキハ大審院ニ於テ其全部或ハ幾分ヲ没入スルノ言渡ヲ爲スヘシ

○司法官吏ヨリ巡査及兵員要求手續 第十四年九月二號達
司法官吏ヨリ巡査及兵員ヲ要求使用スルニハ左ノ手續ニ從フ可シ此旨相達候事
第一條 裁判官檢察官及ヒ司法警察官治罪法ニ從ヒ檢證及ヒ物件差押

其他職務ヲ行フニ當リ必要ナル時ハ警察署又ハ憲兵屯營ニ照會シテ
巡查又ハ憲兵卒ヲ使用スルコトヲ得

但事機緊急ナル時ハ直チニ之ヲ使用スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テ事緊急重要ニ涉ル時ハ直チニ「鎮臺又ハ分營
ニ照會シテ兵力ヲ要求スルコトヲ得

○辯護士ノ事務ハ當分代言人ニ取扱ハシム二十三年十月
司法省訓令第四號
訴訟法中辯護士ノ執ル可キ事務ハ追テ辯護士ヲ置カルヘキニ付當分ノ
内代言人之ヲ取扱フ儀ト心得ヘシ但上席檢事ハ此旨管内代言人ニ通達
スヘシ

○刑事ノ控訴及上告ニ由リ被告人ニ屬スル費用支辨方二十三年十月
內務省令第十五號
重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁
判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人勾禁中ノ費用並ニ裁判確
定ノ後四人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判言渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以
テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ
在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送
官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○間接國稅犯則者處分法明治二十三年九月
法律第八十六號

朕間接國稅犯則者處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件收調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタ

ルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スル

トキハ間稅官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間稅官吏證憑集取ヲ爲スコトキハ間稅官吏タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物件其間稅官署ノ管轄區

域外ニ在ルトキハ其地ノ間稅官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間稅官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官

吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間稅官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若ハ其同居ノ親屬又ハ傭人ヲシテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムハシ

第五條 間稅官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ於テハ此限ニアラス

第六條 開稅官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及諸人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑若ハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徴スヘシ若シ之ヲ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ケ又ハ間稅署若ハ間稅分署ニ送致シタルトキハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間稅官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入スルコトヲ禁スルヲ得

第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ
調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 本人ノ氏名年齢身分職業住所
 - 二 犯則事件發見ノ手續及日時場所
 - 三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述
 - 四 差押ヘタル證據物件及種類數量竝ニ本人ノ物件ニ對スル辯解
- 第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品竝ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラス若ハ犯則事件禁錮又ハ勾留ニ該ルモノト認ルトキ又罰金若ハ税金ヲ完納スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ
犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事件ヲ告發スヘシ

- 一 犯則者逃走ノ恐アルトキ
- 二 證憑湮滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管若ハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキ

ハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付
スヘシ

第十八條 此法律ニ於テ間税官吏トハ間接國税ノ検査若ハ徵收ニ從事スル
官吏ヲ謂フ

第十九條 間税官吏ハ直接ト間接トヲ問ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受
クルコトヲ得ス

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東
京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分之ヲ施行セス

○間接國税犯則者處分ニ關シ書類送達方明治二十三年十月
勅令第二百三十二號
朕間接國税犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セ
シム

第一條 間接國税犯則者處分ニ關シ犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ
使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル
場合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第二條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人
ニ渡スヘシ

使上ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領收書ヲ取リテ間税署若ハ間税
分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使
丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ
者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書
類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取リテ間税署長若ハ間税分署長ニ差出
スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサ

ルトキハ其旨ヲ間稅署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

五百五十

○間接國稅犯則者處分法施行細則二十三年十一月十一號
間接國稅犯則者處分法施行細則左ノ通相定ム

第一條 間接國稅犯則者處分法施行細則

爲スヘシ但犯則ノ地ト犯則發覺ノ地ト其管轄官署ヲ異ニシ犯則ノ地ニ於テ處分スルヲ便宜ナリト爲ストキハ之ヲ犯則ノ地ヲ管轄スル間稅署又ハ分署ニ移スヘシ

第二條 數箇ノ間稅官署ノ管轄區域内ニ於テ同一ノ犯則ヲ爲シタルモノ

アルトキハ最初ニ之ヲ發覺シタル地ノ間稅官署ニ於テ之ヲ處分スヘシ
第三條 一稅則ニ付數罪俱發シタル場合ニ於テ其數罪中ノ一箇ノ罪若シ
間稅署ノ處分權限ニ屬スルトキハ其他ノ罪モ間稅署ニ於テ併セテ之ヲ處分スヘシ

第四條 間稅官吏犯則事件ノ證憑集取ヲ爲スニ際シ若クハ間稅署長又ハ分署長ニ於テ犯則事件ヲ調査スルニ當リ其事件ニ牽連スル他ノ普通犯罪ヲ發覺シタルトキハ其普通犯罪ハ管轄裁判所ニ告發シ其犯則事件ハ刑法第一編第七章ノ數罪俱發ノ例ヲ用フルモノヲ除ク外處分法ノ定ム

第五條 處分法第十一條第二項ノ合計價額ハ法律ニ於テ罰金ノ額ヲ一定

セサルモノハ其罰金ノ最多額ヲ以テ之ヲ算シ沒收品ノ價額ハ間稅官吏ノ見積リ價額ヲ以テ之ヲ算スヘシ

第六條 間稅官吏ハ處分請求書ヲ差出シタル後ト雖モ若シ事實參考トナルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ直チニ之ヲ間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第七條 間稅官吏ハ犯則物件ニ付鑑定人ヲ必要ナリト思料シタルトキハ相當ノ者ヲシテ鑑定ヲ爲サシメ其鑑定書ヲ徵スヘシ

第八條 間稅官吏犯則事件ノ搜查ニ著手シタルトキハ該事件罪トナラス若クハ證憑不充分ナリト思料シ處分請求ヲ爲サハル場合ト雖モ其取調書類ニ意見ヲ附シ直チニ之ヲ間稅分署長ニ差出スヘシ

第九條 犯則處分ニ關シ間稅官吏ヨリ間稅署長ニ差出スヘキ書類ハ所屬分署長ヲ經由スヘシ

第十條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルニ當リ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ發見シタルトキハ間稅官吏ヲシテ之ヲ集取セシムヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ處分法第十一條ニ據リ犯則事件ヲ調査スルモ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ處分請求書ヲ棄却シ差押物件ハ之ヲ

間接國稅犯則者處分法

五百五十一

本人ニ還付スヘシ
 前項ノ場合ニ於テハ處分請求書ヲ棄却シタル旨ノ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ
 第十二條 第十一條ニ據リ處分請求書ヲ棄却シタルトキハ處分法第十六條ノ費用ハ之ヲ徵收セサルモノトス
 第十三條 間税署長又ハ分署長ハ犯則者ニ於テ處分通告ノ旨ヲ履行セサルニ依リ管轄裁判所ニ該事件ヲ告發スルトキハ同時ニ處分法第十六條ノ費用ヲ該裁判所ニ訴求スヘシ
 第十四條 處分法第十一條ノ沒收ニ該ル物品ニシテ市町村吏員又ハ隣佑若シハ本人ニ預ケタルモノハ保管ノ儘納付ノ手續ヲ爲サシムヘシ
 第十五條 間税署長又ハ分署長ニ於テ沒收品ヲ領收シタルトキハ之ヲ主管官吏ニ引續クヘシ
 第十六條 處分法第十一條ノ罰金其他ノ收入金ハ會計法規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處理スヘシ
 第十七條 處分法第十二條ニ掲ル七日ノ期限ハ通告書ヲ受取ルヘキ者ニ於テ之ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ
 第十八條 間税署長又ハ分署長ヨリ發スル通告書ハ便宜ニ依リ犯則者所在地ノ分署ニ郵送シ該分署ヨリ使丁ヲ以テ之ヲ本人ニ送達スルコトヲ得但本人ノ領收證ハ即日之ヲ通告書ヲ發シタル間税署ニ發送スヘシ

第十九條 間税署長又ハ分署長ハ犯則者若シ其管轄區域外ニ在ルトキハ處分法第十一條ノ通告ヲ爲スニ當リ其納付スヘキ金額物件ヲ犯則者所在地ノ管轄間税分署ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ
 第二十條 間税署長又ハ分署長ハ前條ノ通告ヲ爲シタルトキハ該通告書ノ謄本ヲ犯則者所在地ノ間税分署長ニ送付シ其金額物件ノ徵收方同署ニ移スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ犯則者期限内ニ通告ノ旨ヲ履行セサルトキハ之ヲ通告書ヲ發シタル間税官署ニ報告スヘシ
 第二十一條 處分法第四條ノ親族ト稱スルハ刑法第百十四條第百十五條ノ例ニ依ルヘシ
 第二十二條 凡ソ犯則處分ニ關スル書類ニハ每葉ニ契印スヘシ若シ文字ヲ插入削除若クハ欄外ニ記入ヲ爲シタルトキハ之ニ認印スヘシ但シ削除シタルモノハ其字體ヲ存シ置キ其字數ヲ記載スヘシ
 第二十三條 間税分署長ハ其管轄内ニ於テ處置シタル犯則事件ノ處分表ヲ調製シ毎月五日期間税署長ニ報告スヘシ
 第二十四條 處分法第一條第三項ノ間税官吏タルノ證票同第十一條ノ送達書同第十二條ノ納證施行細則第二十三條ノ犯則事件處分表ハ第一號ヨリ第四號マテノ様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(様式略之)

五百五十四

○監獄則 明治二十二年七月
勅令第九十三號

沿革略記 明治五年十一月第三百七十八號達ヲ以テ監獄則并圖式ヲ定
ム○六年四月第二百二十九號達ヲ以テ前則并圖式法當分施行

ヲ止メ舊慣ニ仍ラシム○八年一月第八號達ヲ以テ四人給與規則ヲ
定ム○十四年三月第十三號達ヲ以テ前規則ヲ廢シ在監人給與規則ヲ
定ム○同年七月第六十四號達ヲ以テ在監人傭工錢規則ヲ定ム○
同年九月第八十一號達ヲ以テ前キノ第十三號及第六十四號達ヲ合
セ本則ヲ定ム○二十二年七月勅令第九十三號ヲ以テ前則ヲ改正ス
是レ現行法ナリ

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所ト

ス

二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル
所トス

三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ
處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス

四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス

五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於
テハ罰金ヲ禁錮ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコ
トヲ得

六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘡啞者ヲ懲治スル所トス

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

第三條 集治監 北海道ニ在ル 及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ
警視總監北海道廳長官府縣知事 東京府 之ヲ管理ス

監獄則

五百五十五

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ
警視總監北海道廳長官府縣知事東京府ヲ除クハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ
巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘置監ヲ巡視スヘシ
檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得
第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ查閱シテ之

ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文
書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歳ニ至ル迄之ヲ
許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置
スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄圍内ニ於テ避災ノ手段ナシト考
定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所
ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放
スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申
出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ
左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者
- 二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者
- 三 滿二十歳以上ノ者
- 四 滿十六以上二十歳未滿再犯ノ者

五 滿二十歲以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

- 一 滿八歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

- 一 滿十二歲以上十六歲未滿ノ者
- 二 滿十六歲以上二十歲未滿ノ者
- 三 滿二十歲以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分チ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ每囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ程科ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

- | | | |
|---------|-------|-----|
| 一月一日 | 二月二日 | 元始祭 |
| 孝明天皇祭 | 紀元節 | |
| 春季皇靈祭 | 神武天皇祭 | |
| 秋季皇靈祭 | 神嘗祭 | |
| 天長節 | 新嘗祭 | |
| 十二月三十一日 | | |
- 父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄園内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ
第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ

逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ
刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ白衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四
麥 十分ノ六

七合乃至八合

最モ強キ作業ニ服スル者

- 一同 五合乃至六合 作業ニ服スル者
- 一同 四合 作業ニ服セサル者
- 一同 三合 十歳未満ノ幼者
- 一菜 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髮ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髮ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第二十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ毎日四時以内讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬舊故ニ回答セント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄
之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ム
ルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ
當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄
ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ム
ルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル
迄辯護人ヲ除クノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ
當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ
其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬
ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ
立會ヲ以テ之ヲ檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬
若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付ス但死亡後二十四時以內ニ在テ其下付ヲ
請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名ヲ記シタル木勝ヲ立ツヘ
シ
刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過キサレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解
下シ之レヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要
ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判
官ノ檢閱ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ
新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書竝ニ書籍用紙印紙郵便切
手貨幣及內務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍

ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ニハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時
間座作ノ役ヲ課ス
- 二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス
- 三 闇室 闇室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜
ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内闇室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

- 一 獨慎 晝夜一室ニ獨居セシム
 - 二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス
- 獨慎ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩脚又ハ一脚ニ欵ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル